

# 2022年度 授業要覧

## 経済学部 履修ガイド



青山学院大学

## 教育方針・理念

---

### 青山学院教育方針

---

青山学院の教育は  
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、  
神の前に真実に生き  
真理を謙虚に追求し  
愛と奉仕の精神をもって  
すべての人と社会に対する責任を  
進んで果たす人間の形成を目的とする。

### 青山学院大学の理念

---

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、  
神と人とに仕え社会に貢献する  
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。  
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって  
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。  
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。  
本学のすべての教員、職員、学生は、  
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、  
おのの立場において、時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

# 青山学院大学

## 「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

本学は、教養教育である「青山スタンダード」を基礎とし、各学部学科の専門教育によって教育課程を編成する。

共通教育の性質上、扱う分野は多岐にわたる。カリキュラム体系として、分野を9領域に分け、加えて初年次教育のカテゴリーを用意する。また、さまざまな学問分野に触れる機会を多くするため、基礎的技能および本学の建学の精神にかかわる一部の科目を除き、多くを選択必修科目として配置する。各領域および初年次教育の内容は以下のとおり編成する。

- ・キリスト教理解関連領域（領域A）

キリスト教の使信、起源、および発展を理解することにより、世界史におけるキリスト教の宗教的、社会的、道徳的、学術的、経済的、政治的、また狭義の文化的影響と意義をキリスト教の立場から考察する。

- ・人間理解関連領域（領域B）

哲学、倫理学、心理学、教育学、文化論、芸術論、文学、言語学、人類学など人文諸科学を通じて、人間とは何かを学ぶ。

- ・社会理解関連領域（領域C）

社会がどのようなしくみとシステムによって成り立っているのか、また、どのような社会的課題があるのかを理解する。

- ・自然理解関連領域（領域D）

自然現象を探求する行為、及びそれによってもたらされる科学的・合理的思考と応用とを理解し、科学的発見と技術開発が人間生活や社会に与える影響や変化を多面的に考える。

- ・歴史理解関連領域（領域E）

歴史の中で政治や経済、法、学問、文化、言語などがどのように構成されてきたのかを理解し、人類史、文化史、自然史といったマクロな歴史的洞察を深める。

- ・言葉の技能（領域F）

日本語はもとより英語をはじめとする諸外国語についてのスキルアップをめざす。

- ・身体の技能（領域G）

自分の身体についての基礎知識や身体技法に関する知識を獲得し、生涯にわたってスポーツに親しむことの出来る能力や健康な生活をマネジメントする能力の修得をめざす。

- ・情報の技能（領域H）

情報化社会を生き抜く上で必要なIT（Information Technology）に関する技法やメディアリテラシーの修得をめざす。

- ・キャリアの技能（領域I）

将来、社会人として活躍するために、様々な職業の実態を具体的な事例を通して学び、また職業人に必要なスキルを身につける。

- ・初年次教育

大学で学問を学ぶ意義や個々の学問の目的、手法について学習し、さらに職業観、勤労観などを育成する。

## 「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

本学を卒業する人材は、教養教育である「青山スタンダード」および学部・学科ごとの専門教育を学修し、正課外活動を通じて、以下の能力等を有している。

- ・十分な知識・技能
- ・それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力
- ・これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲・関心・態度

「青山スタンダード」による学修は、およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、以下の一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえているという社会的評価を受けることを到達目標とする。

### ①知識・技能

- ・学問的なものの考え方、基本的な調査・分析・表現方法、現代社会で活躍するための基本的な情報スキルを身につけている。

### ②思考力・判断力・表現力

- ・さまざまな学問分野の視点・手法・成果を理解し、物事について多面的、多角的に考えることができる。

### ③意欲・関心・態度

- ・異なる文化・社会や異なる歴史観への関心、および他者への豊かな共感をもち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

# 経 济 学 部

## 経 济 学 科

### 「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

「理論・数量コース」・「応用経済コース」・「歴史・思想コース」の3つのコースにおいて、履修科目を「基礎科目」「専攻科目」の2つに分類し、段階学習によって専門性を高めていけるようにカリキュラムを整備する。1年次の基礎科目により経済学の土台を作り、その土台のうえで専攻科目によって体系的な学問理解を深めるような科目編成を行う。それぞれの科目は多様な学問領域にわたるもので、各自の将来の職業を視野に入れつつ、学修できるシステムとする。

### 「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

経済学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（経済学）」を授与する。

#### ①知識・技能

- ・経済学を理論・政策・歴史の側面から総合的に修得している。
- ・修得した専門的知識を社会生活に応用し、または大学院レベルの専門的学習にスムーズに移行できる力を身につけている。

#### ②思考力・判断力・表現力

- ・現実の経済社会で生じている諸問題を自ら分析することができる。

#### ③意欲・関心・態度

- ・強い意志と行動力をもって自主的に率先して社会に貢献する意欲を有している。

## **現代経済デザイン学科**

### **「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」**

社会経済を取り巻く具体的な諸問題を探求し、解決策を提案できる力を養うため、公共経済学と地域経済学の2つを柱とした系統的な科目群を用意し、演習・実習科目が、互いに関連性と統一性をもって配置され、段階的に専門知識を深めることができるカリキュラムとする。1・2年次ではコア科目を配置し、2年次後半から「公共コース」と「地域コース」に分かれ、選択したコースに応じて3・4年次に専門科目へと進むように編成する。なお、各コースを包含する形でGIS（地理情報システム）による空間分析も学習することができる。

### **「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」**

現代経済デザイン学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（経済学）」を授与する。

#### **①知識・技能**

- ・公共経済学および地域経済学をベースとした経済学の基礎を体系的に修得している。
- ・修得した専門的知識を現代経済の諸問題に応用させながら、市場経済を主体的に動かしていく力を持っている。

#### **②思考力・判断力・表現力**

- ・現実の経済社会で生じている諸問題に対し、自らの利害を超えて、社会のためにどのような制度や政策が望ましいのかについて、公平な経済社会実現という観点から、より良い制度や施策を提案できる高い学問的見識を身につけ、かつわかりやすく一般に説明できる。

#### **③意欲・関心・態度**

- ・自律した思考に基づき、行動力と柔軟性・協調性をもって社会に貢献する意欲を有している。

## 総目次

I. キリスト教教育について	2
II. 大学での学習活動について	3
1 大学での学習とは（カリキュラム／履修）	
2 単位（単位制／単位とは／単位数／既修得単位の認定／協定校・認定校留学による単位認定）	
3 授業科目の種類と配置（授業科目の種類／履修年次／履修順序）	
III. 履修について	6
1 履修計画（履修計画の立案／履修計画上の注意／成業の見込みのない学生について）	
2 履修登録（履修登録について／履修登録の方法／履修登録の確認／履修取消制度について／履修取消申請方法／他大学との単位互換制度について）	
IV. 学部履修要項	11
V. 授業について	51
1 授業（授業時間／授業教室／休講／補講／授業の欠席について）	
2 大学からの伝達	
3 緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について	
VI. 試験・レポートについて	53
1 試験の種別（定期試験／平常試験／レポート／追試験）	
2 定期試験の受験（定期試験時間／受験上の注意）	
3 追試験の受験（申請資格／申請方法／追試験時間・採点）	
4 不正行為	
VII. 成績評価について（成績評価／G.P.A./成績通知／成績調査）	57
VIII. 進級および卒業について（進級／卒業／9月卒業／卒業延期制度）	59
IX. 証明書について	60
X. 学籍について	61
（修業年限／在学年限／休学／復学／退学／再入学／二重学籍／除籍／転学部・転学科）	
XI. 教職課程（教員免許状・各種資格）について	63
1 本学で取得可能な教育職員免許状〔取得可能な教員免許状の種類・教科（学部・学科別）〕	
2 教員免許状の取得希望申請について	
3 教職課程料の納付について	
4 教職課程履修について（履修上の注意／履修順序のある科目／〔教員免許状取得に必要な科目の履修順序〕）	
5 教職課程科目配置表	
6 本学で取得可能な資格〔取得可能な資格の種類（学部・学科別）〕	
7 各種資格の取得希望申請について	
8 資格課程料の納付方法	
9 各種資格取得に必要な科目の履修について（履修上の注意／履修順序のある科目／事前登録科目）	
XII. 大学院について	69
卷末 教務窓口について	

# I. キリスト教教育について

## 本学のキリスト教教育

キリスト教の精神のもとに建てられている青山学院は、その「教育方針」にも明記されているように「キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き 真理を謙虚に追求し 愛と奉仕の精神をもって すべての人と社会とに対する責任を 進んで果たす人間の形成を目的とする」特別な学校です。そしてこの「目的」を達成するために、本学には次の3つの基本的プログラムがあります。

- (1) 大学礼拝 (2) キリスト教概論 (3) 宗教センター活動

### (1) 大学礼拝

大学では、キリスト教教育の中心に礼拝を位置づけており、時間を定めて礼拝を行っています（礼拝時間：青山・月～金 10時30分～11時 および 火 18時30分～19時、相模原・月～金 10時30分～11時）。大学礼拝は、キリスト教信仰を土台とする学院の精神を最も具体的に示す場であるとともに、みなさんにキリスト教による人格教育を行う教育の場でもあります。礼拝出席は自由ですが、青山学院大学の独特な“スピリット”は礼拝においてよく表わされているので、大学礼拝を体験することなしに本学の教育を受けたとは言えないのです。ぜひ、ご参加ください。

### (2) キリスト教概論

大学の必修科目の一つとして、「キリスト教概論Ⅰ・Ⅱ」があります。この講義はキリスト教信仰の内容を学問的に研究し、聖書を通してキリスト教の教義、歴史、神学、実践上の問題を理解するとともに、その現代的意義を学ぶことを目的としています。大学礼拝とキリスト教概論とは密接な関係があり、そのため礼拝レポートがキリスト教概論の中に取り入れられています。その他数多くのキリスト教関連科目が青山スタンダード（テーマ別科目）、ソーパー・プログラム科目、各学科科目のなかに配置され、みなさんの知的好奇心にチャレンジしています。

### (3) 宗教センター活動

青山キャンパスは間島記念館1階に、相模原キャンパスはC棟（チャペル）1階にそれぞれ宗教センターがあり、ここを中心に「聖書に親しむ会」、「キリスト教文化に親しむ会」、青山キリスト教学生会（ACF）、聖歌隊、ハンドベル・クワイア、ゴスペル・クワイアまた、キリスト教図書の閲覧、講演会・コンサートの開催、研修旅行の実施などのキリスト教活動が行われています。さらに、各宗教センターには大学の専任教員でもある宗教主任（牧師）がおり、事務職員と協力して毎日みなさんのために宗教上の指導、アドバイス、教会紹介、カウンセリングなどの責任を負っています。活動の詳細は宗教センターWebサイト（URL <http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/top.html>）を参照してください。

## Ⅱ. 大学での学習活動について

### 1. 大学での学習とは

#### カリキュラム

大学の授業科目、単位数、履修年次（どの学年で履修するか）を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。所属する学部・学科のカリキュラムにそって学習を進め、最終的に、定められたカリキュラムの授業内容を修得することが、大学での学習の目的です。

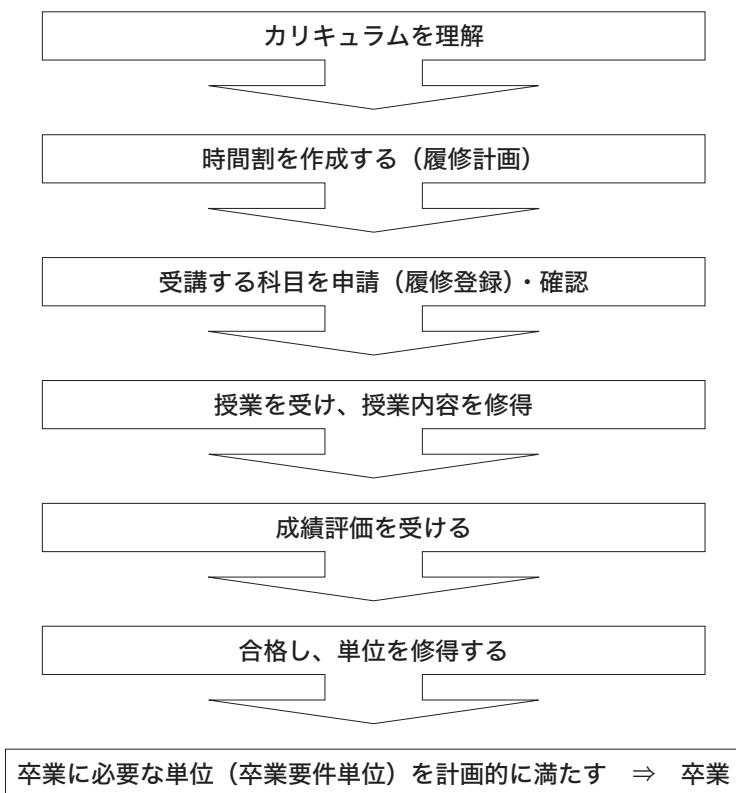
カリキュラムは入学年度別に定められており、卒業まで変更はありません。

各学部・学科のカリキュラムについては、「IV. 学部履修要項」を参照してください。

#### 履 修

各学部・学科のカリキュラムにそって配置された授業科目の受講を大学に申請することを「履修登録」、授業を受け、試験に合格して単位を得ることを「単位を修得する」といいます。この「履修登録」から「成績評価を受ける」までの一連の流れを「履修」といいます。

図式化すると以下のようになります。



大学では、カリキュラムで定められた範囲で履修する科目を選択することができますが、卒業に至るまでの過程は自己責任であるということを常に念頭に置いてください。

## 2. 単位

### 単位制

単位制とは、卒業するために、在学年限内に所定の単位を修得しなければならない制度です。これは極めて厳格なもので、たとえ1単位であっても不足すると卒業できません。卒業に必要な単位数は、学部・学科ごとに定められています。詳しくは、「IV. 学部履修要項」の「卒業要件」を参照してください。

### 単位とは

単位とは、学習の成果を量的に表したもので、授業科目を履修し、出席回数、平常試験・定期試験またはレポート、その他担当教員が必要と認める学習作業の結果などによって、その授業科目に合格したと担当教員が判断したとき、所定の単位が与えられます。

### 単位数

単位数は、それぞれの授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。

大学設置基準による規定	1単位の標準=“45時間の学修が必要な内容”
-------------	------------------------

#### 本学での単位算定方法

講義・演習の科目では…	1単位=授業15～30時間分
実験・実習・実技（スポーツなど）の科目・集中科目では…	1単位=授業30～45時間分

15時間の講義科目（1単位）を例に取ると、“45時間の学修を必要とする内容”で1単位、と規定されており、授業時間外に30時間の自習が前提となっています。

なお、ここでいう“1時間”とは、授業時間45分を表します。本学での1时限の授業は90分で行われているので、単位計算上は、1时限=“2時間分の授業”となります。

半期の講義科目では、

$$15\text{週} \times 2\text{時間} = 30\text{時間分} = 2\text{単位}$$

となります。

#### 実際の単位数

半期科目 (前期のみ、または後期のみの科目)	15週で完結 ・講義科目なら2単位 ・演習科目なら2単位または1単位 ・実験・実習・実技科目なら1単位
通年科目 (一年を通して行われる科目)	30週で完結 ・講義科目なら4単位 ・演習科目なら4単位または2単位 ・実験・実習・実技科目なら2単位

### 既修得単位の認定

新たに入学した1年生で、本学入学以前に他大学・短期大学すでに修得した単位があり、修得済み単位として認定を受けたい学生は、指定された期間（入学式翌日～前期授業開始日）に書類を所属キャンパスの教務窓口に提出し申請してください。各学部・学科の基準に従って単位認定の可否が決定されます。既修得単位として認定された単位数と、入学後に交換留学等で認定される単位数は、合わせて60単位を越えないものとします。（大学学則第42条参照）この申請は、入学した年度に限って可能であり、次年度以降に申請することはできません。

編入・転学部・転学科した学生の場合は、それまで修得した単位のうち、各学部・学科が適当と認める科目の単位が認定されますので、指定された期間（入学手続時配付書類に記載）に書類を所属キャンパスの教務窓口に提出し申請してください。

### 協定校・認定校留学による 単位認定

協定校留学・認定校留学の制度によって留学した場合は、帰国後所定の手続きをふむことで、留学先で修得した単位について、各学部・学科の基準に従って単位認定の可否が決定さ

れます。既修得単位として認定された単位数と、入学後に交換留学等で認定される単位数は、合わせて60単位を越えないものとします。（大学学則第42条参照）ただし、教員免許状取得希望者の場合、認定された科目の単位は、教員免許状取得に係る単位として証明されません。

### 3. 授業科目の種類と配置

#### 授業科目の種類

各授業科目は、卒業要件として必ず履修・修得しなければならないか否かによって、以下の3つに区分されます。

##### 授業科目の種類

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定されたいくつかの科目の中から選択履修し、各学部・学科所定の単位数を必ず修得しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修し、必要単位数を修得する科目

上記の内容でわかるとおり、履修の際には、「必修科目」を優先して卒業要件単位を満たしていく必要があります。

また、授業の開講期間によって、前期あるいは後期で完結する「半期科目」、1年を通じて実施する「通年科目」、夏期・冬期休業期間などをを利用して実施する「集中講義科目」に分かれます。

#### 履修年次

「履修年次」とは、それぞれの授業科目を履修するのが望ましい学年のことです。履修年次は、4年間の学習を系統的に行えるよう、カリキュラムに基づいて定められています。

履修年次は「IV. 学部履修要項」部分の科目配置表に記載されていますので、それに従って科目を履修してください。

原則として、現在の学年より上級の年次に配置されている授業科目を履修することはできませんが、現在の学年より下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができます。ただし、例外もありますので、「IV. 学部履修要項」で確認してください。

#### 履修順序

各学部・学科には、段階的に学習を進めるために「履修順序」が設けられた授業科目があります。これは、ある授業科目の単位を修得しなければ、その上級科目として設けられている授業科目を履修することができない、というものです。

上級に設けられた授業科目は、初級の授業科目の内容をすでに修得していることを前提とし、その次の段階から授業を始めます。したがって、初級の授業科目と上級の授業科目を同時に履修することはできません。ただし、4年次留年生は、学部・学科によっては履修順序に関係なく履修できる場合もあります。

各学部・学科の履修順序については、「IV. 学部履修要項」に記載されています。

### III. 履修について

#### 1. 履修計画

##### 履修計画の立案

大学においては、各学生がカリキュラムにそって履修計画を立て、受講したい科目を選択します。

授業科目には、あらかじめ登録されている「事前登録科目」（必修科目等）があり、学生はそれ以外の時限について履修計画を立てることになります。

履修計画を立てるに当たっては、カリキュラムについてよく理解し、所属学部・学科で定められた必修科目の修得と、進級や卒業に必要な履修規定上の必要条件（進級条件・卒業要件）を満たすことを優先させます。

1年間で履修申請できる単位数が決められています（最高履修制限単位）。下記の(1)～(5)にそって、履修計画を立ててください。

- (1) 年度末から年度初めにかけてのオリエンテーション期間中に行われる所属学部・学科のガイダンスに出席する。

ガイダンスでは、履修上の注意や授業科目の説明が行われますので、必ず出席して最新の情報を得てください。学部・学科・学年によっては、Web配信の場合があります。

- (2) カリキュラムの内容、特徴、意義について知る。

「IV. 学部履修要項」の卒業要件単位表・科目配置表で、各授業科目がどのような分野に属しているかを確認してください。履修順序についても、ここで確認してください。

- (3) 各授業科目の講義内容を知る。

『講義内容』（「学生ポータル」の「時間割・講義内容検索」よりアクセス可能）には、各授業の詳しい授業計画などが記載されています。履修しようと思う科目の内容をよく確認してください。

「IV. 学部履修要項」の「履修年次」は履修が望ましい年次を表しています。履修順序などで履修が制限されることがありますので、「IV. 学部履修要項」で必ず確認し、なるべく望ましい年次での履修を心がけてください。

- (4) 卒業に必要な科目と単位数、資格に必要な科目と単位数を知る。

卒業要件単位とは、卒業に必要な最低限の単位です。教員免許状および各種資格を取得するためには、これに加えてそれぞれに必要な所定の単位を修得しなければなりません。「IV. 学部履修要項」、「XI. 教職課程（教員免許状・各種資格）について」および冊子『教職課程履修の手引』を参照し、各自の目標に合った計画を立ててください。

- (5) 履修したい科目を検討する。

どの曜日・時限に授業を履修するか、『授業時間割表』（「学生ポータル」の「授業時間割表（PDF版）」よりアクセス可能）や履修ガイダンス時に配布された資料等を参照しながら検討してください。

##### 履修計画上の注意

履修計画に際しては、以下のことに注意してください。

- (1) 通年で1科目以上履修登録しない場合は、除籍になる可能性があります。大学側で事前に登録する科目以外に、必ず自身で1科目以上の履修登録をするようにしてください。ただし、4年生については、事前登録科目の履修のみで卒業見込みとなる場合、履修未登録の扱いにはなりません。

なお、前期に履修登録をしない場合は、後期に履修登録する意思があることを教務課・学務課まで申し出てください。

除籍に関する詳細は、授業要覧「X. 学籍について」を参照してください。

- (2) 同一時限に、2科目以上の授業科目を重複して履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）

- (3) 各学部・学科で1年間の履修登録単位数の限度（最高履修制限単位）が定められてお

り、その単位数を超えて履修することはできません。

教職課程関連科目および教職課程科目については「IV. 学部履修要項」および冊子『教職課程履修の手引』を参照してください。

- (4) 既に単位を修得した科目を、再度履修登録することはできません。(特に許可された科目を除きます。)
- (5) 他キャンパスの授業科目を履修する場合、90分間の移動時間が必要です。この移動時間の間に実施されている授業科目の履修はできません。(オンライン授業(オンデマンド型)を除きます)
- (6) 他学部科目的履修を希望する場合、「IV. 学部履修要項」の「他学部科目一覧表」を参照してください。
- (7) 履修登録締め切り後、登録に不備や間違いがあったときは、当該科目的登録が無効となります。
- (8) 受講者数が著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果などを考慮して、クラスの分割・抽選などの措置を取ることがあります。

## 成業の見込みのない学生について

入学後1年または2年間の修得単位数やG.P.A.が以下の条件に合致する学生に対し、修学の意思を確認するとともに、警告・注意・退学勧告等を行います。

成業の見込みのない学生として除籍されることがありますので、該当することのないよう注意してください。

(入学後1年間の修得単位数・成績)

- ・修得単位数が16単位以下又はG.P.A.が学部の警告を要すると認める基準値(0.5未満)
- ・修得単位数が17単位以上31単位以下又はG.P.A.が学部の注意を必要と認める基準値(0.5以上、0.7未満)

(入学後2年間の修得単位数・成績)

- ・修得単位数が32単位未満かつG.P.A.が学部の判定基準として決定した基準値(0.7未満)

## 2. 履修登録

### 履修登録について

「履修登録」は、学期初頭に、その学期に履修を希望する授業科目を大学に登録する、大変重要な手続きです。一科目でも登録もれや登録間違いがあってはなりません。『履修登録システム利用案内』をよく読み、各自の責任において、履修登録期間内に履修登録を完了してください。履修登録期間は「学生ポータル」で確認してください。

制限科目の応募締切日時は、個々の科目により異なります。また、当選した場合は、履修を取り消すことができません。

後期開講科目であっても、前期に履修登録を行う科目がありますので、注意してください。

後期の履修登録に際しては、次の4点に注意してください。

- (1) 最高履修制限単位内で、後期科目のみの登録を行うことができます。
- (2) 通年科目を削除しなければならない登録はできません。
- (3) 前期に修得できなかった科目と同一名称科目の再履修はできません。
- (4) (2)(3)の制限にかかわらず、学部学科等から特に指定があった場合は、それに従ってください。

後期履修登録期間中に登録できる単位数は次のとおりです。

$$\text{後期履修登録期間に登録できる単位数} = \frac{\text{当該年度の最高履修制限単位}}{\text{(後期科目のみ)}} - \left[ \begin{array}{l} \text{前期修得単位数} \\ + \\ \text{前期に修得できなかった単位数} \\ + \\ \text{履修取消科目の単位数} \\ + \\ \text{通年科目の単位数} \end{array} \right]$$

## 履修登録の方法

本学の履修登録は、基本的には Web 上のシステム「Web 履修登録システム」で行います。詳細については、冊子『履修登録システム利用案内』を参照してください。

履修登録方法は次のとおりです。

### 【登録番号と履修登録方法】

『授業時間割表』の登録番号表示	履修登録方法
数字 5 衡が表示されている + + + + +	Web 履修登録システムを利用して、自分で登録する科目です。履修登録期間内であれば、自分で削除することもできます。
* * * * *	Web で抽選または選考を行う科目です。Web 履修登録システムの「制限科目申請」から応募してください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。曜日時限等に間違いのないよう、注意して応募してください。また、受付期間が科目によって異なりますので、注意してください。
# # # # #	Web 以外で抽選または選考を行う科目です。所定の日時・場所（オリエンテーション期間中や初回授業等）で申請してください。申請方法については、『青山スタンダード履修案内』や『講義内容』、学部・学科等の指示に従ってください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。
-----	事前に登録済または履修登録期間中に大学側で登録を行う科目です。自分で履修登録する必要はありません。

### 【ペア科目】

ペア科目とは、同一授業科目で、週 2 回以上授業を行う科目です。『授業時間割表』には「ペア」と記載されています。『授業時間割表』に記載されている登録番号で登録してください。対応するほかの曜日・時限も自動的に登録されます。

### 【集中講義科目】

集中講義科目とは、曜日・時間にかかわらず、一定の期間に集中して授業を行う科目です。『授業時間割表』の各学部・学科注意事項を確認のうえ登録してください。

### 【「健康・スポーツ演習」・「スポーツ運動実習】

これらの科目に関するガイダンスに出席してください。

## 履修登録の確認

登録や修正を行った後は、必ず「履修登録画面」で誤りがないか確認をし、履修登録リストを印刷して、年度末まで保管してください。自身の責に帰すべき事由か否かに関わらず、履修登録期間外の履修登録・変更・削除はできません。

(例) 履修登録システムの不具合によって履修登録ができなかった、就職活動のため履修登録期間に履修登録をできなかった 等

適切に履修登録が行われなかつたことによって生じる不利益について、大学は一切責任を負いません。

履修登録期間終了後、最高履修制限単位の超過や登録の不備があった場合には大学側で登録の削除を行うことがあります。

なお、履修登録をしていない授業に出席することや試験を受けることはできません。履修登録をしていない授業の試験を受けても単位を修得できないばかりか、不正行為として学生

## 履修取消制度について

処分の対象となりますので注意してください。（「試験における不正行為者処分規則施行細則」第2条参照）

また、期日までに履修登録を行わない場合、修学の意志がないものとして、大学学則第34条に基づき除籍処分となります。

授業の内容が勉強したいものと異なっていた場合、履修登録期間終了後の一定期間内であれば履修を取りやめることができます。

詳細は以下のとおりです。

1) 対象者：全学部生

2) 対象科目：下記①、②を除く全科目

① 事前登録科目（履修登録期間中に大学側が登録する科目を含む）

② 制限科目

※ この他に学部・学科で対象外としている科目がある場合は「IV. 学部履修要項」に記載されていますので、参照してください。

※ 夏期集中科目（後期扱い）の取消は前期の履修取消期間に申請してください。

3) 履修取消科目の扱い：本制度を利用して取り消した前期科目と同一名称の科目を後期に履修することはできません。

4) 履修取消科目の単位の扱い：本制度を利用して取り消した科目の単位数は、当該年度の申請単位数に含まれます。

5) 履修取消科目の成績評価の表示：

① 成績通知書：「W」

② 成績証明書：記載しない。

6) その他の注意事項：上記4)で説明した通り、履修取消をしても申請単位数は減りません。そのため、4年次留年生の申請単位数によって学費が計算される場合、履修取消をしても学費は減額されませんので注意してください。

## 履修取消申請方法

履修取消の申請は、所定の期間内に所属キャンパスの教務担当部署で受け付けます。申請の取り下げは一切認められません。履修取消申請受付期間や申請方法は、「学生ポータル」で確認してください。

## 他大学との単位互換制度について

本学では、國學院大學、実践女子大学・実践女子大学短期大学部、聖心女子大学と「渋谷4大学連携単位互換制度に関する協定書」を締結しています。また、東京外国語大学と「青山学院大学と東京外国語大学との間における単位互換に関する協定書」を締結しています。

これらの制度の利用を希望する学生は以下を参照し、履修手続きを行ってください。

1) 対象者：全学部生

2) 対象学年：2年生～4年生（4年次後期など卒業判定にかかる学期は対象外）

3) 対象科目：別途「学生ポータル」にて指示。

4) 出願資格：出願時の累積G.P.A.が、所属学部または所属学科の平均値以上。

5) 履修方法：定められた期間内に手続きを行ってください。

手続きについての期間や詳細は「学生ポータル」で確認してください。

※1 履修が認められた科目の履修取消は認めません。

※2 受講に際しては各大学の学事暦・時間割に従います。

6) 履修条件：他大学での履修合計で、年間8単位を上限とし、各年次の最高履修制限単位に含まれます。

7) 単位認定：所定の合格基準に達した場合は、本学の科目として成績および単位が付与されます。成績証明書および成績通知書には「AA、A、B、C」と表記されます。また、付与された単位は、卒業要件の自由選択科目に算入されます。

8) 事務手数料：大学により、事務手数料がかかる場合もあります。

## IV. 経済学部履修要項

【1】履修について	12
【2】青山スタンダード科目履修方法および配置表	14
【3】第一外国語科目	25
【4】専門科目	
・経済学科	27
・現代経済デザイン学科	32
【5】大学院科目特別履修制度	38
他学部科目一覧表	39

# 【1】履修について

## 1. 卒業要件

### (1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表に示す区分にしたがってその単位を修得しなければなりません。ここに示す単位数は科目の種別ごとに要求される最低の単位数です。これが1単位でも不足すると卒業は認められません。また、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、オンライン授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとします。(大学設置基準第32条)

124単位は卒業に必要な最低単位数なので、意欲のある学生はこれを超えた単位数の修得が可能です。

### (2) 学位について

経済学部に4年以上(上限8年)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記を与え、「学士(経済学)」の学位を授与します。

卒業要件単位表

### 経済学科

科 目 の 種 類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目		必修 選択必修	26
外 国 語 科 目	第一外国語科目	必修	10
専 門 科 目	A群(基礎科目)	必修 選択必修	78
	B群(専攻科目)	選 択	
	C群(専攻科目) ※産業論は上限8単位	選 択	
	D群(関連科目) ※上限8単位	選 択	
自由選択科目	青山スタンダード科目26単位を超えた単位 経済学部開講の第一外国語選択科目 専門78単位を超えた単位 他学部開講の専門科目 他大学との単位互換制度により修得した科目	選 択	10
総 計			124

※ A群で16単位を超えた単位は、自由選択科目に加算。

※ B・C・D群で62単位を超えた単位は自由選択科目に加算。

### 現代経済デザイン学科

科 目 の 種 類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目		必修 選択必修	26
外 国 語 科 目	第一外国語科目	必修	10
専 門 科 目	A群(入門科目)	必修 選択必修	80
	B群(基礎科目)	必修 選択必修	
	C群(専攻科目)	選 択	
	D群(関連科目) ※上限20単位(内、産業論は上限4単位)	選 択	
	青山スタンダード科目26単位を超えた単位 経済学部開講の第一外国語選択科目 専門80単位を超えた単位 他学部開講の専門科目 他大学との単位互換制度により修得した科目	選 択	8
総 計			124

※ A・B群で30単位を超えた単位は、C群に加算。

※ C・D群で50単位を超えた単位は、自由選択科目に加算。

## 2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次生は、この表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次においては、**1科目以上の履修をしなければなりません。**

学 年	1年次	2年次	3年次	4年次	合 計
最高履修制限単位	44	46	46	48	184

(注意)各種資格の取得を希望する学生の教職課程科目の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

## 3. 進級条件

### 経済学科

2年次終了時までに、「ミクロ経済学」および「マクロ経済学」を含む卒業要件単位50単位以上を修得しなければ3年次に進級できません。

### 現代経済デザイン学科

2年次終了時までに、卒業要件単位50単位以上を修得しなければ3年次に進級できません。

## 4. 編入学者

編入学者については、入学時の学年の履修条件が適用されます。履修方法等通常の入学者とは異なりますので特に注意してください。なお、編入学者の場合、編入をした年度に限り履修順序は適用しません。編入後、2年間に限り50単位に満たない範囲で、最高履修制限単位を超えて履修することができます。

## 【2】青山スタンダード科目履修方法および配置表

### 1. 全学部に共通する教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に共通する教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえているという社会的評価を受けることを到達目標とする」として、青山スタンダード科目を開講しています。

### 2. 履修方法

科目の種類			必選の別	必要単位
青山 ス タ ン ダ ー ド 科 目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目	必修	2
	2) 技能コア	言葉の技能	※ 1	
		英語 第二外国語 ※ 2 ※ 3	必修	4
	3) テーマ別	身体の技能	必修※ 4	2
		情報の技能	必修	2
	4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記 4 領域のうち 2 領域から「教養コア科目」を選択	必修
	5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より 4 ) で選択しなかった 2 領域から各 1 科目 ( 2 単位 ) ずつ選択。( 「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可 )	選択必修
		フレッシャーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、キャリアデザイン・セミナー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。	( 1 ) ~ ( 5 ) で修得した科目は除く )	選択

※ 1 言葉の技能・英語は、所属する学部(学科)が開講する科目を履修します。詳しくは、所属する学部(学科)の外国語科目履修方法および配置表に関するページを参照してください。(英語スキル I - 1 、 I - 2 を除く)

※ 2 第二外国語科目の中から 1 外国語を選択します(入学手続き時に申請されています)。

※ 3 第二外国語科目には、履修順序があります。

- ・第二外国語科目は、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます。
- ・「インテンシブ・(第二外国語)」は週に半期 4 クラスをセットとし前後期で履修登録するものです。このうち前期 4 クラスのどれか一つでも不合格となれば後期 4 クラスを履修することはできません。

・「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語) II 」あるいは「(第二外国語)会話( I )」は、「(第二外国語) I 」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語) III 」は、「インテンシブ・(第二外国語) (A)~(D)-1 」あるいは「(第二外国語) II - 2 」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語)会話( II )」は、「インテンシブ・(第二外国語) (A)~(D)-1 」「(第二外国語) II - 2 」あるいは「(第二外国語)会話( I ) - 2 」の単位を修得した者のみ履修を認められます。

※ 4 教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報・地球社会共生・コミュニティ人間科のみ必修です。

- 必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

(太字は必修科目)

## 3. 授業科目配置表

	授業科目	単位	配置年次	備考
	フレッシャーズ・セミナー	2	1	1年生のみ
	ウェルカム・レクチャー	2	1	1年生のみ
	キャリアデザイン・セミナー	2	1	1年生のみ
教養コア科目	(キリスト教理解関連科目) <b>キリスト教概論Ⅰ</b>	2	1	
	(人間理解関連科目) 自己理解(総合科目)	2	1	(総合科目)：複数の教員による担当
	自己理解(個別科目)	2	1	(個別科目)：一人の教員による担当
	(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題(総合科目)	2	1	(総合科目)：複数の教員による担当
	現代社会の諸問題(個別科目)	2	1	(個別科目)：一人の教員による担当
	(自然理解関連科目) 科学・技術の視点(総合科目)	2	1	(総合科目)：複数の教員による担当
	科学・技術の視点(個別科目)	2	1	(個別科目)：一人の教員による担当
	(歴史理解関連科目) 歴史と人間(総合科目)	2	1	(総合科目)：複数の教員による担当
	歴史と人間(個別科目)	2	1	(個別科目)：一人の教員による担当
	英語スキルⅠ-1	1	1	1年生のみ
	英語スキルⅠ-2	1	1	1年生のみ
	(第二外国語)Ⅰ(A)-1	1	1	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
技能コア科目	(第二外国語)Ⅰ(A)-2	1	1	
	(第二外国語)Ⅰ(B)-1	1	1	
	(第二外国語)Ⅰ(B)-2	1	1	
	英語Ⅰ-1	1	1	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2回履修し、計4単位修得してください。
	英語Ⅰ-2	1	1	
	英語(I A)-1	1	1	外国人留学生のみ
	英語(I A)-2	1	1	外国人留学生のみ
	英語(I B)-1	1	1	外国人留学生のみ
	英語(I B)-2	1	1	外国人留学生のみ
	日本語Ⅰ(A)-1	1	1	外国人留学生のみ
	日本語Ⅰ(A)-2	1	1	外国人留学生のみ
	日本語Ⅰ(B)-1	1	1	外国人留学生のみ
	日本語Ⅰ(B)-2	1	1	外国人留学生のみ
身技体能の	健康・スポーツ演習		2	1
				教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報・地球社会共生・コミュニケーション人間科のみ必修
情技報能の	<b>情報スキルⅠ</b>		2	1
テーマ別科目 <small>キリスト教理解A</small>	キリスト教概論Ⅱ	2	2・3	理工学部・社会情報学部は2年次 他は3年次配置
	旧約聖書と人間	2	2・3・4	
	新約聖書と人間	2	2・3・4	
	キリスト教生命倫理	2	2・3・4	

キリスト教理解関連科目（領域A）	キリスト教政治倫理	2	2・3・4	
	キリスト教と自然科学	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
	キリスト教環境倫理	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
	キリスト教音楽	2	2・3・4	
	キリスト教美術	2	2・3・4	
	メソジスト教会史	2	2・3・4	
	世界の諸宗教	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
	聖書の中の女性たち（旧約）	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
	聖書の中の女性たち（新約）	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
	サービス・ラーニングⅠ	2	2・3・4	
	サービス・ラーニングⅡ	2	2・3・4	
	サービス・ラーニングⅢ	2	2・3・4	
	海外語学・キリスト教文化研修	2	2・3・4	
テーマ別科目（領域B）	グローバル課題とNGO	2	2・3・4	特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン寄附講座
	哲学 A	2	2・3・4	
	哲学 B	2	2・3・4	
	哲学の諸問題 A	2	2・3・4	
	哲学の諸問題 B	2	2・3・4	
	哲学の諸問題 C	2	2・3・4	
	哲学の諸問題 D	2	2・3・4	
	論理学 A	2	2・3・4	
	論理学 B	2	2・3・4	
	美学 A	2	2・3・4	
	美学 B	2	2・3・4	
	倫理学 A	2	2・3・4	
	倫理学 B	2	2・3・4	
	倫理学の諸問題 A	2	2・3・4	
	倫理学の諸問題 B	2	2・3・4	
	西洋倫理思想史 A	2	2・3・4	
	西洋倫理思想史 B	2	2・3・4	
	言語学 A	2	2・3・4	
	言語学 B	2	2・3・4	
	日本語学 A	2	2・3・4	
	日本語学 B	2	2・3・4	
	文学 A	2	2・3・4	
	文学 B	2	2・3・4	
	文学史 A	2	2・3・4	
	文学史 B	2	2・3・4	
	美術 A	2	2・3・4	
	美術 B	2	2・3・4	
	美術史 A	2	2・3・4	
	美術史 B	2	2・3・4	

人間理解関連科目 (領域B)	音 楽 A	2	2・3・4	
	音 楽 B	2	2・3・4	
	音 楽 史 A	2	2・3・4	
	音 楽 史 B	2	2・3・4	
	文化 人 類 学 A	2	2・3・4	
	文化 人 類 学 B	2	2・3・4	
	比 較 文 化 A	2	2・3・4	
	比 較 文 化 B	2	2・3・4	
	比 較 文 化 の 諸 問 題 A	2	2・3・4	
	比 較 文 化 の 諸 問 題 B	2	2・3・4	
	心 理 学 A	2	2・3・4	心理学科除く
	心 理 学 B	2	2・3・4	心理学科除く
	人 づ き あ い の 科 学 A	2	2・3・4	
	人 づ き あ い の 科 学 B	2	2・3・4	
	教 育 学 A	2	2・3・4	
	教 育 学 B	2	2・3・4	
テ マ 別 科 目	平 和 を 考 え る A	2	2・3・4	
	平 和 を 考 え る B	2	2・3・4	
	人間関係とコミュニケーションA	2	2・3・4	
	人間関係とコミュニケーションB	2	2・3・4	
	文化とコミュニケーション	2	2・3・4	
	法 学 (日本国憲法を含む) A	2	2・3・4	法学部除く。
	法 学 (日本国憲法を含む) B	2	2・3・4	教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
	日 本 の 法 と 社 会 A	2	2・3・4	
	日 本 の 法 と 社 会 B	2	2・3・4	
	国 際 政 治 経 済 学 A	2	2・3・4	
	国 際 政 治 経 済 学 B	2	2・3・4	
	国 際 関 係 概 論 A	2	2・3・4	
	国 際 関 係 概 論 B	2	2・3・4	
	社 会 学 A	2	2・3・4	
	社 会 学 B	2	2・3・4	
社会理解関連科目 (領域C)	現 代 社 会 と 教 育 人 間 学 A	2	2・3・4	
	現 代 社 会 と 教 育 人 間 学 B	2	2・3・4	
	経 済 学 A	2	2・3・4	経済学部除く
	経 済 学 B	2	2・3・4	経済学部除く
	情 報 社 会 科 学 A	2	2・3・4	
	情 報 社 会 科 学 B	2	2・3・4	
	情 報 社 会 論	2	2・3・4	
	社 会 と 情 報	2	2・3・4	
	人 口 問 題 A	2	2・3・4	
	人 口 問 題 B	2	2・3・4	
	ジェンダーとフェミニズム A	2	2・3・4	

社会理解関連科目 (領域C)	ジェンダーとフェミニズムB	2	2・3・4	
	社会とアイデンティティ	2	2・3・4	
	メディアとアイデンティティ	2	2・3・4	
	マスメディアと社会	2	2・3・4	
	データサイエンス	2	2・3・4	経済学部除く
	福祉と人間A	2	2・3・4	
	福祉と人間B	2	2・3・4	
	環境問題と社会	2	2・3・4	NPO環境平和持続の会寄附講座
	金融と生活設計	2	2・3・4	金融広報中央委員会寄附講座
	日本の農業・農村とビジネス	2	2・3・4	
	ボランティア・市民協働論	2	2・3・4	
	革新技術と社会共創A	2	2・3・4	
	革新技術と社会共創B	2	2・3・4	
	ジェロントロジーと諸科学	2	2・3・4	
テーマ別科目 自然理解関連科目 (領域D)	いのち・女性・社会	2	2・3・4	
	技術史A	2	2・3・4	
	技術史B	2	2・3・4	
	日常生活の数理	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部除く
	数理科学入門I	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部除く
	数理科学入門II	2	2・3・4	
	数理科学の視点	2	2・3・4	
	数理モデル	2	2・3・4	
	自然科学概論A	2	2・3・4	
	自然科学概論B	2	2・3・4	
	文化としての科学・技術A	2	2・3・4	
	文化としての科学・技術B	2	2・3・4	
	生活と先端テクノロジー	2	2・3・4	
	ライフサイエンス	2	2・3・4	

自然理解関連科目 (領域D)	自然地理学B	2	2・3・4	
	科学史	2	2・3・4	
	生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4	
	生命の連続(遺伝)	2	2・3・4	
	かたちの科学	2	2・3・4	
	自然史	2	2・3・4	
	自然観の変遷	2	2・3・4	
	青山学院大学の歴史	2	2・3・4	
	日本社会史A	2	2・3・4	
	日本社会史B	2	2・3・4	
歴史理解関連科目 (領域E)	日本社会史C	2	2・3・4	
	中國史A	2	2・3・4	
	中國史B	2	2・3・4	
	ヨーロッパ史A	2	2・3・4	
	ヨーロッパ史B	2	2・3・4	
	ヨーロッパ史C	2	2・3・4	
	現代史A	2	2・3・4	
	現代史B	2	2・3・4	
	現代史C	2	2・3・4	
	現代史D	2	2・3・4	
特別科目	考古学A	2	2・3・4	
	考古学B	2	2・3・4	
	科学思想史A	2	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(A)-1	1	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
	インテンシブ・(第二外国語)(A)-2	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(B)-1	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(B)-2	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(C)-1	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(C)-2	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(D)-1	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(D)-2	1	2・3・4	
技術能力(領域F)	(第二外国語)II(A)-1	1	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
	(第二外国語)II(A)-2	1	2・3・4	
	(第二外国語)II(B)-1	1	2・3・4	
	(第二外国語)II(B)-2	1	2・3・4	
	(第二外国語)II(C)-1	1	2・3・4	
	(第二外国語)II(C)-2	1	2・3・4	
	(第二外国語)II-1	1	2・3・4	
	(第二外国語)II-2	1	2・3・4	
	英語II-1	1	2・3・4	フランス文学科のみ
	英語II-2	1	2・3・4	
	英語(IIA)-1	1	2・3・4	



テ マ 別 科 目	日本語 (III F)B	1	3
	日本語 (III S)C	1	3
	日本語 (III F)C	1	3
	日本語 (III S)D	1	3
	日本語 (III F)D	1	3
	日本語 (IVS)A	1	3
	日本語 (IVF)A	1	3
	日本語 (IVS)B	1	3
	日本語 (IVF)B	1	3
	日本語 (IVS)C	1	3
	日本語 (IVF)C	1	3
	日本語 (IVS)D	1	3
	日本語 (IVF)D	1	3
	日本語 (VS)A	1	3
	日本語 (VF)A	1	3
	日本語 (VS)B	1	3
	日本語 (VF)B	1	3
	日本語 (VS)C	1	3
	日本語 (VF)C	1	3
	日本語 (VS)D	1	3
	日本語 (VF)D	1	3
	日本語 (VIS)A	1	3
	日本語 (VIF)A	1	3
	日本語 (VIS)B	1	3
	日本語 (VIF)B	1	3
	日本語 (VIS)C	1	3
	日本語 (VIF)C	1	3
	日本語 (VIS)D	1	3
	日本語 (VIF)D	1	3
	日本語 (VII S)A	1	3
	日本語 (VII F)A	1	3
	日本語 (VII S)B	1	3
	日本語 (VII F)B	1	3
	日本語 (VII S)C	1	3
	日本語 (VII F)C	1	3
	日本語 (VII S)D	1	3
	日本語 (VII F)D	1	3
	日本事情 (I S)	2	3
	日本事情 (I F)	2	3
	日本事情 (II S)	2	3
	日本事情 (II F)	2	3
	日本事情 (III S)	2	3

交換留学生のみ

テ マ 別 科 目	日本事情 (III F)	2	3	交換留学生のみ
	日本事情 (IVS)	2	3	
	日本事情 (IVF)	2	3	
	日本事情 (VS)	2	3	
	日本事情 (VF)	2	3	
	日本事情 (VIS)	2	3	
	日本事情 (VIF)	2	3	
	日本事情 (VII S)	2	3	
	日本事情 (VII F)	2	3	
	アメリカ合衆国の社会と文化 A	2	2・3・4	
	アメリカ合衆国の社会と文化 B	2	2・3・4	
	アメリカ合衆国の社会と文化 C	2	2・3・4	
	英語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
	英語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
	フランス語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
	フランス語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
	フランス語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	
	ドイツ語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
	ドイツ語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
	ドイツ語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	
	スペイン語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
	スペイン語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
	スペイン語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	
	中国語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
	中国語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
	中国語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	
	ロシア語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
	ロシア語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
	韓国・朝鮮の社会と文化 A	2	2・3・4	
	韓国・朝鮮の社会と文化 B	2	2・3・4	
	イスラム圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
	イスラム圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
	日本学 A	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
	日本学 B	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
	English Studies A	2	2・3・4	
	English Studies B	2	2・3・4	
	English Studies C	2	2・3・4	
	English Studies E	2	2・3・4	
	ことばの研究 A	2	2・3・4	
	ことばの研究 B	2	2・3・4	
	都市と文化 A	2	2・3・4	
	都市と文化 B	2	2・3・4	

薬(領域の技能) F	民族文化論 A	2	2・3・4	
	民族文化論 B	2	2・3・4	
身体の技能 (領域G)	健 康 医 学	2	2・3・4	
	ス ポ ー ツ 生 理 学	2	2・3・4	
	ス ポ ー ツ バ イ オ メ カ ニ ク ス	2	2・3・4	
	ス ポ ー ツ 心 理 学	2	2・3・4	
	動 き の 人 間 学	2	2・3・4	
	医 療 社 会 学	2	2・3・4	
	ス ポ ー ツ 運 動 実 習	1	2・3・4	4回まで重複履修を認めます。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
情報の技能 (領域H)	ア ド バ ン スト ス ポ ー ツ 実 習	2	2・3・4	
	ヘルスプロモーションへの取組み	2	2・3・4	大塚製薬株式会社東京支店寄附講座
	ウ エ ブ プ ロ グ ラ ミ ング	2	2・3・4	
	コンピュータプログラミング	2	2・3・4	
	コンピュータと社会	2	2・3・4	
テ マ 別 科 目	デ ー タ 分 析 入 門	2	2・3・4	
	情 報 ス キ ル II	2	2・3・4	
キ ヤ リ ア の 技 能 (領域I)	キ ャ リ ア デ ザ イ ン 基 础	2	2・3・4	
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン 応 用	2	3・4	
	仕 事 力 基 础 論	2	2・3・4	
	国 際 ビ ジ ネ ス 入 門 A	2	2・3・4	
	国 際 ビ ジ ネ ス 入 門 B	2	2・3・4	
	感 性 ビ ジ ネ ス A -ファッショング産業のフロンティア-	2	2・3・4	
	感 性 ビ ジ ネ ス B -ファッショング産業のフロンティア-	2	2・3・4	
	感 性 ビ ジ ネ ス C -ファッショング・ビジネス戦略論-	2	2・3・4	
	感 性 ビ ジ ネ ス D -ファッショング・ビジネス戦略論-	2	2・3・4	(財)ファッショング産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
	パーソナル・マネー・マネジメント入門	2	2・3・4	大樹生命保険株式会社寄附講座
の 技 能 (領域I)	国 際 ビ ジ ネ ス と 海 外 事 情 A	2	2・3・4	
	国 際 ビ ジ ネ ス と 海 外 事 情 B	2	2・3・4	
	現 代 金 融 の 諸 問 題	2	2・3・4	金融青山会寄附講座
	囲碁で養うロジカルシンキング	2	2・3・4	公益財団法人日本棋院寄附講座
	海 外 語 学 ・ 文 化 研 修 I	2	2・3・4	
	海 外 語 学 ・ 文 化 研 修 II	2	2・3・4	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I	2	2・3・4	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II	2	2・3・4	
	世 界 遺 产 入 門	2	2・3・4	NPO 法人世界遺産アカデミー寄附講座
	営 業 学 入 門	2	2・3・4	プルデンシャル生命保険株式会社寄附講座
サ ー ビ ス ・ ラ ー ニ ン グ として の ボ ラン ティ ア 活 動	サ ー ビ ス ・ ラ ー ニ ン グ として の ボ ラン テイ ア 活 动	2	2・3・4	
	ス ポ ー ツ ・ エ ン タ ー テ イ メ ント ・ ビ ジ ネ ス	2	2・3・4	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会寄附講座

テーマ別科目	キャリア領域の技能	アントレプレナーシップ概論	2	2・3・4	プロトスター株式会社寄附講座
		ホスピタリティ・マネジメント	2	2・3・4	日本航空株式会社寄附講座
		エアラインビジネス	2	2・3・4	日本航空株式会社寄附講座

### 【3】 第一外国語科目

#### 1. 配置表

#### 必修 (10単位)

	履修年次	授業科目	単位	備考
必修	1	リーディング・コンプリヘンションⅠA	1	
		リーディング・コンプリヘンションⅠB	1	
		ファンダメンタル・イングリッシュA	1	
		ファンダメンタル・イングリッシュB	1	
		ライティング&コミュニケーションA	1	
		ライティング&コミュニケーションB	1	
	2	リーディング・コンプリヘンションⅡA	1	リーディング・コンプリヘンションⅠA及び リーディング・コンプリヘンションⅠB修得者のみ履修可
		リーディング・コンプリヘンションⅡB	1	
		リーディング&ディスカッションA	1	ファンダメンタル・イングリッシュA及び ファンダメンタル・イングリッシュB修得者のみ履修可
		リーディング&ディスカッションB	1	
選択	1	英語資格試験準備講座A (TOEFL)	1	
		英語資格試験準備講座B (TOEIC)	1	

※第一外国語科目には、クラス指定のある科目があります。

※他学部の第一外国語科目は履修できません。

※選択科目は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

**2. 外国人留学生の  
外国語科目の履修  
について**

**A. 第一外国語科目の履修方法**

**必 修 (10単位)**

	履修年次	授 業 科 目	単位	備 考
必 修	1	日本語初級 A - 1	1	
		日本語初級 A - 2	1	日本語初級 A - 1 修得者のみ履修可
		日本語初級 B - 1	1	
		日本語初級 B - 2	1	日本語初級 B - 1 修得者のみ履修可
		日本語初級 C - 1	1	
		日本語初級 C - 2	1	日本語初級 C - 1 修得者のみ履修可
選 択	2	日本語中級 A - 1	1	
		日本語中級 A - 2	1	日本語中級 A - 1 修得者のみ履修可
		日本語中級 B - 1	1	
		日本語中級 B - 2	1	日本語中級 B - 1 修得者のみ履修可
選 択	3	日本語上級- 1	1	
		日本語上級- 2	1	日本語上級- 1 修得者のみ履修可

※初級、中級、上級の履修順序はありません。

※指定の第一外国語科目以外は履修できません。

※選択科目は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

**B. 言葉の技能〔領域 F〕(第二外国語科目) の履修方法 ([ 2 ] 青山スタンダード科目 参照)**

**必 修 (4 単位)**

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから 1 カ国語を履修してください。ただし、母国語（第一言語）は第二外国語として履修できません。

(注意)

- (1) 外国人留学生の第一外国語科目・第二外国語科目については、前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。
- (2) 申請した第二外国語以外の外国語科目の単位は、自由選択科目に算入されます。
- (3) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外などすでに学習したことのある学生が、その学力を I の科目修得者に準ずると認定された場合、II の科目で卒業に必要な単位に充当することができます。

## 【4】 専門科目

### 経済学科

#### 1. 専門科目

① A群（選択必修科目）の必要単位：16単位（これを超えた単位は、自由選択科目に加算）  
※16単位のうち、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」の計8単位は必修です。

② B・C・D群（選択科目）の必要単位：62単位（これを超えた単位は、自由選択科目に加算）  
※C群の産業論は上限8単位で、これを超えた単位は卒業要件外となります。  
※D群（関連科目）は上限8単位で、これを超えた単位は自由選択科目に加算されます。

#### 2. 演習

演習は、各学部の基礎または概要科目で学んだことをもとに、自分自身で研究テーマを見つけ、大学4年間の集大成である「卒業論文」作成を目標とする専門科目です。学生主体の討議形式を中心に授業が進みます。

ただし、教員ごとに少人数の登録となりますので、選考を要します。

##### (1) 履修登録方法

3年生：「演習ⅠA」（2単位）、「演習ⅠB」（2単位）

前年度中におこなわれる選考に合格した場合は、事前登録科目として自動的に履修登録されます。「演習ⅠB」は、「演習ⅠA」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

4年生：「演習ⅡA」（2単位）、「演習ⅡB」（2単位）、「卒業論文」（4単位）

前年度に引き続き同じ指導教員の演習科目を受講する場合（指導教員の継続許可がない場合を除く）または前年度中におこなわれる選考に合格した場合は、「演習ⅡA」「演習ⅡB」「卒業論文」の3科目を全て履修します。

「演習ⅡB」は、「演習ⅡA」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

「卒業論文」は、「演習ⅡB」を履修または単位修得した者のみが履修を認められます。

※再履修を希望する場合は指導教員の履修許可を必要とします。

##### (2) 履修登録に関する注意事項

- ① 4年次において「卒業論文」を履修する場合は、必ず卒業論文を提出してください。
- ② 4年次において「演習ⅡA」、「演習ⅡB」、「卒業論文」を履修した場合は必修となります。したがって、これらの単位を修得できない場合には、他の選択科目で卒業単位を充足していても卒業は認められません。

その他、不明な点がある場合は、必ず教務課経済学部の窓口で確認してください。

##### (3) 卒業論文について

提出日時・注意事項については、学生ポータルを確認してください。

※提出日時に遅れた場合は、いかなる理由があろうとも一切受け付けません。

#### 3. 大学院連携科目

大学院レベルの学修を希望する本学科生に、大学院連携科目として、経済学研究科経済学専攻の科目の一部を開講しています（卒業要件単位に算入されます）。

該当科目は備考欄に「院共通」と記載されています。

#### 4. 「寄附講座」

備考欄に「寄附講座」とある科目は、企業の寄附により開講されている科目です。企業の都合により次年度以降閉講する場合があります。

## 4. 「経済学科」専門科目配置表

	群	コース	授業科目	単位	履修年次	備考
基礎科目	A群		ミクロ経済学	4	1	※ A群より <b>16単位選択必修。</b> このうち以下の <b>8単位</b> は必修。 「ミクロ経済学」 「マクロ経済学」
			マクロ経済学	4	1	
			経済学入門	2	1	
			経済数学入門 I	2	1	
			経済数学入門 II	2	1	
			経済史概論 I	2	1	
			経済史概論 II	2	1	
			統計学概論 I	2	1	
			統計学概論 II	2	1	
専攻科目	理論・数量	理論	ゲーム理論	2	2	※ A群より <b>16単位選択必修。</b> このうち以下の <b>8単位</b> は必修。 「ミクロ経済学」 「マクロ経済学」
			初学者のためのゲーム理論	2	2	
			厚生経済学	2	2	
			行動経済学	2	2	
			マクロ政策論 I	2	2	
			経済動学 I	2	2	
		統計・情報	経済数学 I	2	2	
			経済数学 II	2	2	
			計量経済学 I	2	2	
			計量経済学 II	2	2	
			数理統計 I	2	2	
			数理統計 II	2	2	
			データサイエンス I	2	2	
			データサイエンス II	2	2	
			経済情報処理 I	2	2	
			経済情報処理 II	2	2	
	B群	応用ミクロ	国際経済学 I	2	2	※ A群より <b>16単位選択必修。</b> このうち以下の <b>8単位</b> は必修。 「ミクロ経済学」 「マクロ経済学」
			国際経済学 II	2	2	
			各国経済論 A I	2	2	
			各国経済論 A II	2	2	
			各国経済論 B I	2	2	
			各国経済論 B II	2	2	
			日本経済論 I	2	2	
			日本経済論 II	2	2	
			実証的労働経済学 I	2	2	
			実証的労働経済学 II	2	2	
	応用経済	金融	金融論 I	2	2	※ A群より <b>16単位選択必修。</b> このうち以下の <b>8単位</b> は必修。 「ミクロ経済学」 「マクロ経済学」
			金融論 II	2	2	
			ファイナンス論基礎	2	2	
			ファイナンス論	2	2	
	公共政策		経済政策論 I	2	2	※ A群より <b>16単位選択必修。</b> このうち以下の <b>8単位</b> は必修。 「ミクロ経済学」 「マクロ経済学」
			経済政策論 II	2	2	
			財政学基礎	2	2	
			財政学 I	2	2	
			財政学 II	2	2	
	制度		社会政策基礎	2	2	※ A群より <b>16単位選択必修。</b> このうち以下の <b>8単位</b> は必修。 「ミクロ経済学」 「マクロ経済学」
			労働経済基礎	2	2	
			制度経済学	2	2	
	歴史・思想	日本経済史 I	2	2		
		日本経済史 II	2	2		
		欧米経済史 I	2	2		

\* 現代経済デザイン学科主体科目

	群	コース	授業科目	単位	履修年次	備考
専攻科目	B群	歴史・思想	欧米経済史II	2	2	
			東洋経済史I	2	2	
			東洋経済史II	2	2	
		思想	キリスト教社会思想史I	2	2	
			キリスト教社会思想史II	2	2	
	C群	分野横断	経済学史I	2	2	
			経済学史II	2	2	
			経済英語	2	2	
		理論・数量	経済地理	2	2	*
			経済地誌	2	2	*
専攻科目	専攻科目	理論・論理	応用ゲーム理論	2	3	
			不確実性と情報の経済学	2	3	
			マクロ政策論II	2	3	
			経済動学II	2	3	
			中級ミクロ経済学	2	3	
			中級マクロ経済学	2	3	
			公共経済学	2	3	
			オープンマクロ経済学I	2	3	
			オープンマクロ経済学II	2	3	
			マーケット・デザイン	2	3	
	専攻科目	統計・情報	コアミクロ経済学特論	2	3	院共通 「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済数学入門I」「経済数学入門II」の全ての成績がA以上の場合、2年次履修可
			コアマクロ経済学特論	2	3	
			理論特論A	2	3	院共通
			理論特論B	2	3	院共通
			経済統計I	2	3	
専攻科目	専攻科目	応用ミクロ	経済統計II	2	3	
			情報・統計特論A	2	3	院共通
			情報・統計特論B	2	3	院共通
			産業組織論I	2	3	
			産業組織論II	2	3	
	専攻科目	応用経済	世界経済論I	2	3	
			世界経済論II	2	3	
			産業特論	2	4	院共通
			金融システム論	2	3	
			金融政策論	2	3	
専攻科目	専攻科目	公共政策	国際金融論I	2	3	
			国際金融論II	2	3	
			ファイナンス市場分析	2	3	
			金融リスク管理	2	3	
			金融特論	2	4	院共通
	専攻科目	公共政策	地方財政の経済学I	2	3	*
			地方財政の経済学II	2	3	*
			租税の経済学I	2	3	
			租税の経済学II	2	3	
			公共政策論I	2	3	
			公共政策論II	2	3	
			農業経済学I	2	3	
			農業経済学II	2	3	

\* 現代経済デザイン学科主体科目

	群	コース	授業科目	単位	履修年次	備考
専攻科目	C群	公共政策	環境経済学Ⅰ	2	3	
			環境経済学Ⅱ	2	3	
			政策特論A	2	4	院共通
		応用制度	社会政策論Ⅰ	2	3	
			社会政策論Ⅱ	2	3	
			社会保障論Ⅰ	2	3	
			社会保障論Ⅱ	2	3	
			NPO論A	2	3	*
			NPO論B	2	3	*
			雇用制度と労使関係	2	3	
			生活経済論	2	3	
			アメリカ経済社会論	2	3	
			労働経済論Ⅰ	2	3	
			労働経済論Ⅱ	2	3	
			政策特論B	2	4	院共通
	歴史・思想	歴史	現代日本経済史Ⅰ	2	3	
			現代日本経済史Ⅱ	2	3	
			現代欧米経済史Ⅰ	2	3	
		思想	現代欧米経済史Ⅱ	2	3	
			経済史特論A	2	4	院共通
			経済史特論B	2	4	院共通
	横断群	分野	経済思想史Ⅰ	2	3	
			経済思想史Ⅱ	2	3	
			経済学史特論	2	4	院共通
		横断	契約の経済学	2	3	*
			法と経済学	2	3	*
			開発経済学Ⅰ	2	3	*
			開発経済学Ⅱ	2	3	*
			交通経済学Ⅰ	2	3	
			交通経済学Ⅱ	2	3	
			都市経済学	2	3	*
			地域経済学Ⅱ	2	3	*
			GIS入門	2	3	
			GIS応用	2	3	「GIS入門」修得者のみ履修可
			地域人口論	2	3	*
			住宅と不動産の経済学	2	3	*
			産業論（総合商社）	2	3	
			産業論（現代の証券）	2	3	野村證券(株)寄附講座
			産業論（ベンチャーカンパニーとマーケティング）	2	3	
			産業論（バンキングビジネス）	2	3	
			産業論（自動車産業）	2	3	
			産業論（税法）	2	3	青山会計人クラブ寄附講座
			産業論（証券ビジネス）	2	3	東海東京証券(株)寄附講座
			産業論（知的エンタテイメント産業Ⅰ）	2	3	日本コントラクトブリッジ連盟寄附講座
			産業論（知的エンタテイメント産業Ⅱ）	2	3	日本コントラクトブリッジ連盟寄附講座
			産業論（ジャーナリズム・企業分析）	2	3	(株)東洋経済新報社寄附講座
※「産業論」が卒業要件単位に算入されるのは <u>8単位</u> までです。それを超えた単位は <b>卒業要件外</b> になりますので注意してください。						

	群	コース	授業科目	単位	履修年次	備考
C 群	演習等	ビジネスコミュニケーション	2	3		
		Academic Writing	2	3		
		演習ⅠA	2	3のみ		
		演習ⅠB	2	3のみ		「演習ⅠA」修得者のみ履修可
		演習ⅡA	2	4のみ		「演習ⅡA」修得者のみ履修可
		演習ⅡB	2	4のみ		「演習ⅡB」履修者または修得者のみ履修可
		卒業論文	4	4のみ		
※ D群科目が専門科目に算入されるのは8単位までで、それを超えた単位は自由選択科目に加算されます。						
関連科目群	現代経済デザイン学科	公的規制の経済学	2	3		
		公共政策の経済学	2	3		
		公共選択論	2	3		
		政策と評価	2	3		
		都市再生論	2	3		
		まちづくりと都市計画	2	3		
	D学群	郊外地域論	2	3		
		経済・金融事情(国際)	2	3		
		憲法A	2	2		
		憲法B	2	2		
		民法A	2	3		
		民法B	2	3		
	経営学	民法C	2	3		
		民法D	2	3		
		商法A(I)	2	3		
		商法A(II)	2	3		
		商法B	2	3		
		商法C	2	3		
		経済法A	2	3		
		経済法B	2	3		
		労働法A	2	3		
		労働法B	2	3		
	国際政治 経済学部	初級簿記I	2	1		
		初級簿記II	2	1		
		マーケティング論I	2	2		
		マーケティング論II	2	2		
		事業戦略論I	2	2		
		事業戦略論II	2	2		
		財務会計論I	2	2		
		財務会計論II	2	2		
		リスク・マネジメント論I	2	3		
		リスク・マネジメント論II	2	3		
	人文・社会学	経営史I	2	3		
		経営史II	2	3		
	国際政治 経済学部	多国籍企業論I	2	3		
		多国籍企業論II	2	3		
	人文・社会学	英語で学ぶ社会・人文学講義A	2	3		
		英語で学ぶ社会・人文学講義B	2	3		

## 現代経済デザイン学科

### 1. 専門科目

- ① A・B 群の必要単位 30単位（これを超えた単位は C 群の単位に加算）
- ② C・D 群の必要単位 50単位（これを超えた単位は自由選択科目に加算）  
※D 群（関連科目）は上限20単位で、これを超えた単位は自由選択科目に加算されます。  
※D 群の内、産業論（経済学科科目）は上限 4 単位で、これを超えた単位は卒業要件外となります。

### 2. 授業科目の種類

必修科目	所属する学部・学科で必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定されたいくつかの科目の中から選択履修し、各学部・学科所定の単位数を必ず修得しなければならない科目
指定科目 (事前登録科目)	所属する学部・学科であらかじめ指定された科目で、必ず履修しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修し、必要要件単位数を修得する科目

### 3. コース

現代経済デザイン学科の専門科目は、基礎的な知識からより高度な専門知識を効率的に習得することができるよう、段階的・体系的に編成されています。学習効果をあげるために、専門科目を系統的に履修することが大切です。コースは、学生が学習目的に即した履修を行うために設けられています。専門科目配置表の専攻科目（C 群）には、公共分野（主に公共コース）3 ブロックと地域分野（主に地域コース）3 ブロック・1 モジュール、計 7 科目群が配置されています。どちらの分野の科目を主として学習するかに応じて、各分野の基礎知識を習得することを目的とした**コース指定科目**を必ず履修することになります。

2 年次後期および 3 年次のコース指定科目は、事前登録科目として自動的に履修登録されますので、各自での履修登録は必要ありません。

※基礎演習を履修しない学生は、希望するコースの申請が別途必要となります。

詳細は、学生ポータルにて確認してください。

### 4. 演習

- ・「基礎演習」  
2 年次後期（2 単位）
- ・「専門演習 I」  
3 年次前期（2 単位）
- ・「専門演習 II」  
3 年次後期（2 単位）
- ・「専門演習 III」  
4 年次前期（2 単位）
- ・「卒業論文 I」  
4 年次前期（2 単位）
- ・「卒業論文 II」  
4 年次後期（2 単位）

◎ 2 年次前期に選考を要します。

※「基礎演習」の選考と履修登録について

- ① 選考時期…2 年次前期
- ② コース申請…選考結果に基づき、コースが決まります。
- ③ 履修登録…選考に合格した場合は、2 年次 7 月末に自動的に事前登録されます。

※「専門演習 I」、「専門演習 II」、「専門演習 III」について

前年度・前学期からの継続を希望する場合は、各自で、各学期に履修登録してください。

※「卒業論文 I」、「卒業論文 II」について

- ・「卒業論文 I」を履修するには、「専門演習 III」を同時に履修する必要があります。
- ・希望者は各自で、各学期に履修登録してください。
- ・提出日時・注意事項については、学生ポータルを確認してください。

※3 年次および 4 年次の指導教員の変更は原則として認められません。

※協定校留学・認定校留学をする場合、演習科目を 4 年間で履修し終えることができない場合がありますので、留学希望者は事前に教務課で留学および演習について確認してください。

**5. 大学院連携科目**

「専門演習III」、「卒業論文I」、「卒業論文II」と並行して履修するなど、高度な専門知識を習得するために、大学院連携科目として、経済学研究科公共・地域マネジメント専攻の科目の一部を本学科の4年次生に開講しています（卒業要件単位に算入されます）。

該当科目は備考欄に「院共通」と記載されています。

**6. 「寄附講座」**

備考欄に「寄附講座」とある科目は、企業の寄附により開講されている科目です。企業の都合により次年度以降閉講する場合があります。

## 7. 「現代経済デザイン学科」専門科目配置表

\* 経済学科主体科目

コース		授業科目	単位	履修年次	備考 (特に記載のないものは選択科目)
入門科目					
A群	学科	現代経済デザイン総合講義	2	1	必修
基礎科目					
A群	コア科目	ミクロ経済学講義	4	1	必修 ペア科目（半期）
		ミクロ経済学演習	2	1	必修
		公共経済学 I	2	1	必修
		地域経済学 I	2	1	必修
		マクロ経済学 I	2	2	必修
		経済情報	2	2	必修
		入門経済数学 I	2	1	選択必修
		入門経済数学 II	2	2	「入門経済数学 I」修得者のみ履修可
		入門統計学 I	2	1	選択必修
		入門統計学 II	2	2	「入門統計学 I」修得者のみ履修可
	公共	マクロ経済学 II	2	2	
	地域	GIS による空間分析 I	2	2	指定
B群	関連科目	ツールとしてのゲーム理論	2	1	
		情報の経済学	2	1	
		グローバル経済 A	2	1	
		グローバル経済 B	2	1	
		グローバル経済 C	2	1	
		経済地理	2	1	
		経済地誌	2	1	
		データ解析	2	2	
		経済政策論 I	2	2	*
		経済政策論 II	2	2	*
		財政学 I	2	2	*
		財政学 II	2	2	*
		経済史概論 I	2	1	*
		経済史概論 II	2	1	*
実践科目		経済学史 I	2	2	*
		経済学史 II	2	2	*
C群	学科関連科目	プレゼンテーション	2	2	
		ビジネスマナー	2	2	
専攻科目					
A群	コア科目	公共と地域社会	2	3	
		公共経済学 III	2	3	指定
		厚生経済学	2	3	指定
		地域経済学 II	2	3	指定
		地域政策論	2	3	指定
応用経済ブロック					
B群	学科関連科目	租税の経済学 I	2	3	*
		地方財政の経済学 I	2	3	
		公的規制の経済学	2	3	
		NPO 論 A	2	3	
		契約の経済学	2	3	
		ミクロ経済学特論	2	4	院共通
		マクロ経済学特論	2	4	院共通

\* 経済学科主体科目

コース		授業科目	単位	履修年次	備考 (特に記載のないものは選択科目)		
C 学 科 関 連 科 目 群	公共分野	租税特論	2	4	院共通		
		地方財政特論	2	4	院共通		
		公共政策特論	2	4	院共通		
		制度・政策ブロック					
		租税の経済学II	2	3	*		
		地方財政の経済学II	2	3			
		公共政策の経済学	2	3			
		社会保障論I	2	3	*		
		社会保障論II	2	3	*		
		公共経営ブロック					
		公共選択論	2	3			
		NPO論B	2	3			
		政策と評価	2	3			
		法と経済学	2	3			
		公共マネジメント特論	2	4	院共通		
	地域分野	空間経済ブロック					
		都市経済学	2	3			
		開発経済学I	2	3			
		交通経済学I	2	3	*		
		交通経済学II	2	3	*		
		環境経済学I	2	3	*		
		環境経済学II	2	3	*		
		産業集積特論	2	4	院共通		
		地域政策ブロック					
		都市再生論	2	3			
		まちづくりと都市計画	2	3			
		住宅と不動産の経済学	2	3			
		郊外地域論	2	3			
		開発経済学II	2	3			
		地域人口論	2	3			
		農業経済学I	2	3	*		
		農業経済学II	2	3	*		
		大都市地域特論	2	4	院共通		
	エリアスタディブロック	エリアスタディブロック					
		各国経済論A I	2	2	*		
		各国経済論A II	2	2	*		
		各国経済論B I	2	2	*		
		各国経済論B II	2	2	*		
		世界経済論I	2	3	*		
		世界経済論II	2	3	*		
		グローバル経済特論	2	4	院共通		
		アジア経済特論	2	4	院共通		
		地域人口特論	2	4	院共通		
	統計・情報モジュール	統計・情報モジュール					
		GISによる空間分析II	2	3	(注) 異名称同一科目: 経済学科「GIS応用」		
		GISによる空間分析III	2	4	(注) 院共通		

(注) 「GISによる空間分析I」修得者のみ履修可。

コース		授業科目	単位	履修年次	備考 (特に記載のないものは選択科目)
C群	演習	基礎演習	2	2のみ	
		専門演習 I	2	3	「基礎演習」修得者のみ履修可
		専門演習 II	2	3	「基礎演習」修得者のみ履修可
		専門演習 III	2	4	「基礎演習」、「専門演習 I」、「専門演習 II」修得者のみ履修可
		卒業論文 I	2	4	「基礎演習」、「専門演習 I」、「専門演習 II」修得者かつ、「専門演習 III」同時履修者のみ履修可
		卒業論文 II	2	4	「基礎演習」、「専門演習 I」、「専門演習 II」修得者のみ履修可
	実践科目	フィールドスタディ	2	2	
		フィールドワーク	2	2	
		Presentation & Debate	2	3	隔年開講
		ビジネスライティング	2	3	隔年開講
		ビジネスコミュニケーション	2	3	
		Academic Writing	2	3	
	総合科目	公共地域政策論（公共）	2	2	
		公共地域政策論（地域）	2	2	
		公共地域政策論（国際）	2	2	
		経済・金融事情（金融機関）	2	2	隔年開講
		経済・金融事情（金融機関経営）	2	2	隔年開講
		経済・金融事情（国際）	2	2	
		経済・金融事情（総合）	2	2	金融青山会寄附講座
		経済・金融事情（ジャーナリズム・企業分析）	2	2	株東洋経済新報社寄附講座
		公共地域政策研究	2	4	院共通
		公共情報研究	2	4	院共通
		地域情報研究	2	4	院共通

## 関連科目

D群	関連科目	※専門科目に算入されるのは20単位までで、それを超えた単位は自由選択科目に加算されます。			
		ただし以下を除く			
		・ A群			
		・ 同一名称科目			
		・ 公共政策論 I			
		・ 公共政策論 II			
		・ GIS 入門			
		・ GIS 應用（異名称同一科目：「GIS による空間分析 II」）			
		・ 演習等			
		・ 院共通（大学院連携科目）			
		なお、C群の「産業論」は、卒業要件単位に算入されるのは4単位までです。それを超えた単位は卒業要件外になりますので注意してください。			
		政治学原論 A	2	1	
		政治学原論 B	2	1	
		憲法 A	2	2	
		憲法 B	2	2	
		民法 A	2	3	
		民法 B	2	3	
		民法 C	2	3	
		民法 D	2	3	
		商法 A (I)	2	3	
		商法 A (II)	2	3	
		商法 B	2	3	
		商法 C	2	3	
		経済法 A	2	3	

コース		授業科目	単位	履修年次	備考 (特に記載のないものは選択科目)
D群 関連科目	法 学	経済法 B	2	3	
		労働法 A	2	3	
		労働法 B	2	3	
		行政学 A	2	3	
		行政学 B	2	3	
		行政法 A	4	3	
		税法 B	2	3	
		税法 C	2	3	
	経 営 学	初級簿記 I	2	1	
		初級簿記 II	2	1	
		マーケティング論 I	2	2	
		マーケティング論 II	2	2	
		事業戦略論 I	2	2	
		事業戦略論 II	2	2	
		財務会計論 I	2	2	
		財務会計論 II	2	2	
		リスク・マネジメント論 I	2	3	
		リスク・マネジメント論 II	2	3	
		経営史 I	2	3	
		経営史 II	2	3	
	国際政治 経済学部	他学部科目一覧表の国際政治経済学部欄を参照してください。対象は経済学部の科目と異名称の科目のみで、I・IIを除いた同一名称科目は履修できません。			
	人文・ 社会学	英語で学ぶ社会・人文学講義 A	2	3	
		英語で学ぶ社会・人文学講義 B	2	3	

## 【5】大学院科目特別履修制度

経済学研究科経済学専攻または公共・地域マネジメント専攻への進学を希望する4年次生に対して、より高度な専門知識を早期に習得する機会を提供するために、経済学研究科の一部の科目を履修することを認めています。

これにより修得した単位は、経済学研究科入学後、博士前期課程修了要件として各専攻において定められた単位数まで申請することができるため、早期修了が可能になります。また、これらの単位は、修得後5年以内に限り経済学研究科入学時に申請することにより認定されます（認定単位数には、上限があります）。

大学院科目特別履修制度は、以下2種類の方法があります。

### 1. 大学院科目特別履修生試験（3年次試験または4年次試験）

3年次試験（履修は4年次前期、後期）

出願資格：本学学部の第3年次に在学する者

4年次試験（履修は4年次後期のみ）

出願資格：本学学部の第4年次に在学する者

### 2. 先取り科目履修（4年次前期に申請）

申請資格：本学学部の第4年次に在学し、3年次終了時点で110単位を修得した者

# 他学部科目一覧表

## 他学部科目の履修について

他学部科目のうち本学部学生が履修可能な科目の一覧表を以下に掲載します。

履修については下記の点に注意してください。

1. 一覧表は他学部が本学部に対して履修可能としている科目を掲載しています。なお、「担当者氏名」および「本年度休講」の掲載はしていませんので、講義内容および授業時間割表にて確認してください。履修希望科目が講義内容および授業時間割表に掲載されていない場合は本年度休講となっています。

また、年度により一覧表の科目のうち履修を認めないなどの措置をとることがあります。

2. 一覧表に掲載されている科目のうち、履修に制限がある場合は、開講学部の履修制限に従って履修してください。
3. 今後、各部の状況により変更が生じる場合がありますので、履修する際は自学部窓口にて確認をしてください。

## 文学部共通科目

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
芸術文化論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	文化財科学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本の思想Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋の思想Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	現代思想Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本美術史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋美術史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	西洋美術史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本文化史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋文化史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	西洋文化史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	映像文化論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋音楽史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	西洋音楽史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	生命倫理学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
詩論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	西洋古典文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	テクスト論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
物語文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	キリスト教文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	世界各地域の文学Ⅰ～VI	各2	2・3・4
児童文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	比較文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	言語学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
比較言語学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	記号論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	古典ギリシャ語Ⅰ～IV	各2	2・3・4
ラテン語Ⅰ～IV	各2	2・3・4	出版ジャーナリズムⅠ・Ⅱ	各2	2・3・4	放送ジャーナリズムⅠ・Ⅱ	各2	2・3・4
認知言語学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	精神分析学入門Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	心理言語学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
イタリアの言語と文化Ⅰ～IV	各2	2・3・4						

## 文学部英米文学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
イギリス文学史Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	イギリス文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	イギリス文化概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
アメリカ文学史Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	アメリカ文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	アメリカ文化概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
グローバル文学・文化概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	グローバル文学理論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	英語学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
英語史Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	英文法Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	コミュニケーション概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
異文化間コミュニケーション概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	英語教育学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	イギリス文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
イギリス文化特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	アメリカ文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	アメリカ文化特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
グローバル文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	グローバル文化特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	英語学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
言語学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	コミュニケーション特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	英語教育学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
英詩概論Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	イギリス事情Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	アメリカ事情Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
英語聖書Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4						

## 他学部科目一覧表

### 文学部フランス文学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
※フランス語会話 I・II	各2	1	フランス文学研究 I・II	各2	3・4	フランス語学研究 I・II	各2	3・4
フランス文化研究 I・II	各2	3・4	講読演習 I・II	各2	3・4	エクスプリカシオン(A) I・(A) II	各2	3・4
エクスプリカシオン(B) I・(B) II	各2	3・4	コミュニケーション I・II	各2	3・4	コミュニケーション III・IV	各2	3・4
エクスプレシオン・エクリット III・IV	各2	3・4	エクスプレシオン・エクリット V・VI	各2	3・4	フランス文学特講 I・II	各2	2・3・4
フランス語学特講 I・II	各2	2・3・4	フランス文化特講 I・II	各2	2・3・4	フランス文学演習 I・II	各2	2・3のみ
フランス語学演習 I・II	各2	2・3のみ	フランス文化演習 I・II	各2	2・3のみ	フランス文学演習 III・IV	各2	3・4
フランス語学演習 III・IV	各2	3・4	フランス文化演習 III・IV	各2	3・4	フランス語科教育法 A・B	各2	3・4
フランス語科教育法特論 A・B	各2	3・4	フランス語作文 I・II	各2	2・3・4	フランス語学概論 I・II	各2	2・3・4
フランス語中級文法 I・II	各2	2・3・4						

※既修得者用クラスのみ履修可

### 文学部日本文学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
日本文学史 (一)	2	1	日本文学史 (二)	2	1	日本文学史 (三)	2	2
日本文学史 (四)	2	2	古典文学概論 I・II	各2	1・2	近代文学概論 I・II	各2	1・2
漢文学概論 I・II	各2	1・2	日本語学概論 I・II	各2	1・2	日本語史 I・II	各2	1・2
表象文化研究概論 I・II	各2	1・2	日本文学入門	2	1・2	文学交流入門	2	1・2
日本文学講読 I・II	各2	1・2	中国古典文学講読 I・II	各2	1・2	日本語学講読 I・II	各2	1・2
表象文化論 I・II	各2	2・3・4	日本文学特講 I・II	各2	2・3・4	日本文学特講 A・B	各2	1・2・3・4
中国古典文学特講 I・II	各2	2・3・4	中国文学・思想特講 I・II	各2	2・3・4	日本語学特講 I・II	各2	2・3・4
文学交流特講 A・B	各2	2・3・4	日本文学研究のための英語 A・B	2	1・2	日本文学とアメリカ・ヨーロッパ	2	2・3・4
日本文学とアジア	2	2・3・4	書理論 I・II	各2	2・3・4			

### 文学部史学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
人文地理学概論 I・II	各2	3・4	日本史特講	2	2・3・4	東洋史特講	2	2・3・4
西洋史特講	2	2・3・4	考古学特講	2	2・3・4	史学特講 A	2	1・2・3・4
史学特講 B	2	1・2・3・4	自然地理学概論	2	2・3・4	地誌学	2	2・3・4
法律学	2	2・3・4	政治学	2	2・3・4	※博物館概論	2	2・3のみ
※博物館経営論	2	2・3のみ	※博物館資料論	2	2・3のみ	※博物館資料保存論	2	2・3・4
※博物館展示論	2	2・3・4	※博物館情報・メディア論	2	2・3・4	※博物館教育論	2	2・3・4
※博物館実習 I	2	3のみ	※博物館実習 II	2	4			

※学芸員希望者のみ

### 文学部比較芸術学科

他学部・他学科生は3年次以上の学生が履修可

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
比較芸術学特講 I	2	3・4	比較芸術学特講 II	2	3・4	比較芸術学特講 III	2	3・4
美学・芸術思想 I・II	各2	3・4	西洋の宗教と芸術	2	3・4	日本・東洋の宗教と芸術	2	3・4
※博物館実習 I	2	3のみ	※博物館実習 II	2	4			

※学芸員希望者のみ

## 教育人間科学部教育学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
西洋教育史 I	2	3・4	西洋教育史 II	2	3・4	西洋教育史 III	2	3・4
教育史特殊講義	2	3・4	教育哲学 A	2	3・4	教育哲学 B	2	3・4
教育学特論 A	2	3・4	教育学特論 B	2	3・4	キャリア教育 B	2	3・4
比較教育学	2	3・4	異文化理解教育	2	3・4	教育学特論 C	2	3・4
教育学特論 D	2	3・4	小児精神神経学	2	3・4	教育学特論 E	2	3・4
教育学特論 F	2	3・4	生涯学習概論 I	2	2	生涯学習概論 II	2	2~4
高等教育論 A	2	3・4	高等教育論 B	2	3・4	生涯学習支援論 I	2	2~4
生涯学習支援論 II	2	2~4	社会教育経営論 I	2	2~4	社会教育経営論 II	2	2~4
社会教育実習※1	2	3・4	社会教育実践研究※1	2	3・4	高齢化社会と教育	2	3・4
青年期と教育	2	3・4	ジェンダーと教育	2	3・4	青年文化論※2	2	2~4
ボランティア教育論	2	3・4	スポーツ・レクリエーション論	2	3・4	教育学特論 G	2	3・4
教育学特論 H	2	3・4	認知科学概論	2	3・4	学校経営と学校図書館※1	2	2
視聴覚教育メディア論	2	3・4	インターフェース論	2	3・4	知的表現論	2	3・4
教材開発論	2	3・4	教育学特論 I	2	3・4	教育学特論 J	2	3・4
図書館情報学概論※3	2	2	図書館システムサービス論※3	2	2	図書館情報文化論※3	2	2
図書館システム経営論※3	2	3・4	情報メディア論 A※3	2	2	情報メディア論 B※3	2	3・4
情報メディア論 C※3	2	3・4	児童サービス論※3	2	3・4	メディア組織法 I※3	2	3・4
メディア組織法 II※3	2	3・4	メディア組織法 III※3	2	3・4	情報サービス論 I※3	2	3・4
情報サービス論 II※3	2	3・4	情報サービス論 III※3	2	3・4	情報技術論※3	2	2~4
図書館情報学実習 A※3	2	4	図書館情報学実習 B※3	2	4	教育学特論 K※3	2	3・4
教育学特論 L	2	3・4	児童福祉論	2	3・4	小児保健論	2	3・4
教育学特論 M	2	3・4	教育学特論 N	2	3・4	小児栄養学	2	3・4
教育学特論 O	2	3・4	教育学特論 P	2	3・4	教育学特論 Q	2	3・4
教育学特論 R	2	3・4	教育学特論 S	2	3・4	教育学特論 T	2	3・4
キリスト教学校論	2	3・4	聖書の世界(旧約)	2	3・4	聖書の世界(新約)	2	3・4
キリスト教の教理	2	3・4	キリスト教と法思想	2	3・4	宗教と社会	2	3・4
礼拝学	2	3・4	キリスト教メンタルヘルス	2	3・4			

※1社会教育主事資格取得希望申請者のみ

※22年生は社会教育主事資格取得希望申請者のみ

※3司書資格取得希望申請者のみ

## 他学部科目一覧表

### 教育人間科学部心理学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
心理学統計法 III	2	3	心の哲学 I	2	3・4	心の哲学 II	2	3・4
哲学的認識論 I	2	2・3・4	哲学的認識論 II	2	2・3・4	認知心理学A(知覚・認知心理学)	2	3・4
認知心理学B(学習・言語心理学)	2	3・4	感情・人格心理学	2	3・4	神経・生理心理学	2	3・4
社会心理学A(社会・集団・家族心理学A)	2	3・4	家族心理学(社会・集団・家族心理学B)	2	3・4	発達心理学 I	2	3・4
発達心理学 II	2	3・4	障害者・障害児心理学	2	3・4	認知心理学概論	2	3・4
認知心理学特講 A	2	3・4	認知心理学特講 B	2	3・4	発達心理学概論	2	3・4
発達心理学特講 A	2	3・4	発達心理学特講 B	2	3・4	社会心理学概論	2	3・4
社会心理学B(応用社会心理学)	2	2・3	社会心理学特講 A	2	3・4	社会心理学特講 B	2	3・4
障害者・障害児の教育と医学	2	3・4	コミュニティ心理学	2	3・4	心理学特別講義 A	2	3・4
心理学特別講義 B	2	3・4	心理学特別講義 C	2	3・4	心理学特別講義 D	2	3・4
心理学特別講義 E	2	3・4	心理学特別講義 F	2	3・4	心理学特別講義 G	2	3・4
健康・医療心理学	2	3・4	福祉心理学	2	3・4	教育・学校心理学	2	3・4
司法・犯罪心理学	2	3・4	産業・組織心理学	2	3・4	人体の構造と機能及び疾病	2	3・4
精神疾患とその治療	2	3・4	関係行政論	2	3・4	グループ・アプローチ	2	2・3
臨床地域援助	2	2・3	臨床心理学特講 A	2	3・4	臨床心理学特講 B	2	3・4
芸術療法	2	3・4	心理面接法 A	2	3・4	心理面接法 B	2	3・4
相談心理学 A	2	3・4	相談心理学 B	2	3・4	臨床発達特講 A	2	3・4
臨床発達特講 B	2	3・4	臨床発達特講 C	2	3・4	精神保健福祉	2	3・4
心理学原書講読 A	2	3・4	心理学原書講読 B	2	3・4	心理学原書講読 C	2	3・4

## 法学部法学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
民法（総則）	4	1	民法（債権総論）	4	2	刑法 A	2	2
刑法 B	2	2	刑法 C	2	3	刑法 D	2	3
ビジネス法入門	2	1	会社法 A	4	2	会社法 B	2	2
商取引法	4	2	支払決済法	2	3	保険法	2	3
金融商品取引法	2	3	企業法務	2	3	国際取引法 A	2	3
国際取引法 B	2	3	ビジネス法特論 A	2	3	ビジネス法特論 B	2	3
ビジネス法特論 C	2	3	労働法 A	2	2	労働法 B	2	2
労働法 C	2	3	労働市場法	2	3	税法 A	2	2
税法 B	2	3	税法 C	2	3	経済法 A	2	3
経済法 B	2	3	知的財産権法 A	2	3	知的財産権法 B	2	3
消費者法	2	3	民法（債権各論）	4	2	民法（物権）	4	3
民法（親族・相続）	4	3	民事訴訟法 A	4	3	民事訴訟法 B	4	3
民事執行法	4	3	破産法	4	3	法と経済	2	1
インターネット法	2	3	民事法特論 A	2	3	民事法特論 B	2	3
民事法特論 C	2	3	民事法特論 D	2	3	民事法特論 E	2	3
法思想史 A	2	1	法思想史 B	2	1	法史学 A	2	2
法史学 B	2	2	法社会学 A	2	3	法社会学 B	2	3
基礎法特論 A	2	3	基礎法特論 B	2	3	比較憲法（統治機構）	2	2
比較憲法（人権保障）	2	2	行政法 A	4	3	行政法 B	4	3
行政法 C	2	3	行政法特論 A	2	3	行政法特論 B	2	3
立法学	2	3	環境法 A	2	3	環境法 B	2	3
社会保障法 A	2	3	社会保障法 B	2	3	政治学原論 A	2	1
政治学原論 B	2	1	行政学 A	2	2	行政学 B	2	2
地方自治論	2	3	政治過程論 A	2	3	政治過程論 B	2	3
日本政治史 A	2	2	日本政治史 B	2	2	政治思想史 A	2	2
政治思想史 B	2	2	西洋政治史	2	2	メディア法 A	2	3
メディア法 B	2	3	教育法	2	3	現代法実務論	2	2
刑事訴訟法 A	2	3	刑事訴訟法 B	2	3	刑事政策 A	2	3
刑事政策 B	2	3	犯罪論	2	3	少年法	2	3
経済刑法	2	3	国際社会と法	2	1	国際法 A	2	2
国際法 B	2	2	国際人権法	2	2	国際社会と人道支援	2	3
国際刑事法	2	3	国際法特論 A	2	3	国際法特論 B	2	3
国際私法 A	2	2	国際私法 B	2	2	国際民事訴訟法	2	3
国際税法	2	3	国際経済法	2	3	国際労働法	2	3
EU法	2	3	国際関係論	4	2	地域統合論	2	3
日本政治外交史	2	2	比較政治学	4	2	外国法（アメリカ）A	2	2
外国法（アメリカ）B	2	2	外国法（アメリカ）C	2	2	外国法（イギリス）A	2	2
外国法（イギリス）B	2	2	外国法（ドイツ）A	2	2	外国法（ドイツ）B	2	2
外国法（フランス）A	2	2	外国法（フランス）B	2	2	外国法（中国）A	2	2
外国法（中国）B	2	2						

## 他学部科目一覧表

### ヒューマンライツ学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
戦争・紛争と人権	2	2	貧困と人権	2	2	ジェンダーと人権	2	2
子どもと人権	2	3	ビジネスと人権	2	3	性的マイノリティと人権	2	3
キリスト教と人権	2	3	Human Rights Issues in the World	2	2	Human Rights Law in the World	2	3
ヒューマンライツ社会学	2	3	ヒューマンライツ特論A	2	3	ヒューマンライツ特論B	2	3
憲法概論A	2	1	憲法概論B	2	1	ジャーナリズム論	2	2
政治学特論A	2	2	政治学特論B	2	3	地域研究特論A	2	2
地域研究特論B	2	3	公共経済学A	2	2	公共経済学B	2	2
経済政策A	2	2	経済政策B	2	2	国際経済入門	2	3
経済学特論A	2	2	経済学特論B	2	3	福祉国家論	2	2
公共政策特論A	2	2	公共政策特論B	2	3	政策評価論	2	2
環境政策	2	3	N P O 論	2	3			

## 経営学部

授業科目	単位	配置年次	授業科目	単位	配置年次	授業科目	単位	配置年次
経営データ分析のための基礎解析入門 I	2	1	経営データ分析のための基礎解析入門 II	2	1	経営データ分析のための線形代数入門 I	2	1
経営データ分析のための線形代数入門 II	2	1	商学基礎論 I	2	1	商学基礎論 II	2	1
経営管理論 I	2	2	経営管理論 II	2	2	経営組織論 I	2	2
経営組織論 II	2	2	経営情報学総論 I	2	2	経営情報学総論 II	2	2
比較経営論 A	2	2	比較経営論 B	2	2	キャリアデザイン論 I	2	2
キャリアデザイン論 II	2	2	企業分析論	2	2	中級簿記 I	2	2
中級簿記 II	2	2	原価計算論 I	2	2	原価計算論 II	2	2
ビジネス・エコノミクスA	2	2	ビジネス・エコノミクスB	2	2	マーケティング・ベーシックスC	2	2
マーケティング・ベーシックスD	2	2	ファイナンス I	2	2	ファイナンス II	2	2
流通論 I	2	2	流通論 II	2	2	国際貿易論 I	2	2
国際貿易論 II	2	2	Organizational Management A	2	2	Organizational Management B	2	2
Entrepreneurial Management I	2	3	Entrepreneurial Management II	2	3	ベンチャー企業経営論	2	3
サプライチェーンと意思決定法A	2	2	サプライチェーンと意思決定法B	2	2	グローバル製品サービス戦略I	2	2
グローバル製品サービス戦略II	2	2	証券投資論 I	2	2	証券投資論 II	2	2
経営意思決定会計論	2	3	国際会計論 I	2	2	国際会計論 II	2	2
制度会計論 A	2	2	制度会計論 B	2	2	業績管理会計論	2	3
企業法務 I	2	3	企業法務 II	2	3	コーポレート・ファイナンス I	2	3
コーポレート・ファイナンスII	2	3	Effective Negotiation	2	3	Written Agreements	2	3
Effective Speech	2	3	Academic Presentation	2	3	グローバルファッショニ I	2	3
グローバルファッショニ II	2	3	イギリス社会研究 I	2	3	イギリス社会研究 II	2	3
英語圏社会・文化研究 I	2	3	英語圏社会・文化研究 II	2	3	朝鮮半島の社会事情 I	2	3
朝鮮半島の社会事情 II	2	3	世界の言語文化 I	2	3	世界の言語文化 II	2	3
平和と国際社会 I	2	3	平和と国際社会 II	2	3	Market and Business Environment	2	3
国際マーケティング	2	3	国際経営論 I	2	3	国際経営論 II	2	3
サプライチェーン・マネジメントA	2	3	サプライチェーン・マネジメントB	2	3	経営戦略論 I	2	2
経営戦略論 II	2	2	経営データ分析応用 I	2	3	経営データ分析応用 II	2	3
ビジネス・イノベーション	2	3	顧客創造戦略論	2	3	人的資源管理論 I	2	3
人的資源管理論 II	2	3	マネジメントサイエンス I	2	3	マネジメントサイエンス II	2	3
人間行動の多面的分析 A	2	3	人間行動の多面的分析 B	2	3	戦略・マネジメント特論 A	2	3
戦略・マネジメント特論 B	2	3	財務コンサルティング論 I	2	3	財務コンサルティング論 II	2	3
会計情報論 I	2	3	会計情報論 II	2	3	会計・ファイナンス特論 A	2	3
会計・ファイナンス特論 B	2	3	企業評価論 I	2	3	企業評価論 II	2	3
実証会計論 I	2	3	実証会計論 II	2	3	財務分析論 I	2	3
財務分析論 II	2	3	監査論 I	2	3	監査論 II	2	3
税務会計論 I	2	3	税務会計論 II	2	3	競争戦略論 I	2	3
競争戦略論 II	2	3	産業労働衛生論	2	3	ヘルスケア経営論	2	3
マーケティング・データ分析 A	2	3	マーケティング・データ分析 B	2	3	マーケティング・ワークショップ A	2	2
マーケティング・ワークショップ B	2	2	マーケティング・ワークショップ C	2	2	マーケティング・ワークショップ D	2	2
マーケティング・ワークショップ E	2	2	マーケティング・ワークショップ F	2	2	広告コミュニケーション	2	3
サービススマーケティング	2	3	ブランド・マネジメント	2	3	消費者行動論 A	2	3
消費者行動論 B	2	3	マーケティング・リサーチ	2	2	マクロ・マーケティング A	2	3
Macromarketing B	2	3	Jリーグのクラブ経営～支えるスポーツ～	2	2			

## 他学部科目一覧表

### 国際政治経済学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
政治学方法概論 I	2	2	政治学方法概論 II	2	2	政治思想史	2	3
比較政治論	2	3	国際正義論	2	3	軽量政治分析	2	3
国際政治経済論 I	2	3	国際政治経済論 II	2	3	国際制度論	2	3
国際安全保障論 I	2	3	国際安全保障論 II	2	3	国際NGO概論	2	2
外交史 I	2	3	外交史 II	2	3	国際平和協力論 I	2	3
国際平和協力論 II	2	3	国連研究	2	3	国際環境論 I	2	3
国際環境論 II	2	3	マスメディアと国際政治	2	3	国際法 I	2	3
国際法 II	2	3	国際関係理論	2	3	国際政治理論	2	3
アジア政治論	2	3	朝鮮半島政治論	2	3	中国政治論 I	2	3
中国政治論 II	2	3	アジア太平洋政治論 I	2	3	アジア太平洋政治論 II	2	3
アメリカ政治論	2	3	E U 論 I	2	3	E U 論 II	2	3
現代安全保障論	2	3	国際開発協力論	2	3	ジェンダーと国際政治	2	3
軍備管理・軍縮論	2	3	人の移動と国際関係	2	3	国際人道支援論	2	3
ロシア・中央アジア政治論	2	3	中東政治論	2	3	対外政策論	2	3
日本の外交	2	2	日本の防衛	2	2	日本政治論 I	2	3
日本政治論 II	2	3	日本外交論	2	3	環境政治論	2	3
国際政治学特講 I	2	1	国際政治学特講 II	2	3	国際政治学特講 III	2	3
国際政治学特講 IV	2	3	ミクロ経済学中級 I	2	3	ミクロ経済学中級 II	2	3
マクロ経済学中級 I	2	3	マクロ経済学中級 II	2	3	経済情報分析入門	2	2
国際公共経済学	2	2	政治経済実証分析	2	2	国際貿易 I	2	2
国際貿易 II	2	2	国際環境経済学 I	2	2	国際環境経済学 II	2	2
中国経済	2	2	国際経済 A	2	3	国際経済 B	2	3
国際労働経済学 I	2	3	国際労働経済学 II	2	3	国際経済法 I	2	3
国際経済法 II	2	3	国際開発政策	2	3	開発金融	2	3
ビジネス・マネジメント I	2	2	ビジネス・マネジメント II	2	2	グローバル経営論 I	2	2
グローバル経営論 II	2	2	国際マーケティング論 I	2	2	国際マーケティング論 II	2	2
多国籍企業論 I	2	3	多国籍企業論 II	2	3	コーポレートファイナンス I	2	3
コーポレートファイナンス II	2	3	マーケットとファイナンス I	2	3	マーケットとファイナンス II	2	3
国際会計 I	2	2	国際会計 II	2	2	管理会計論 I	2	3
管理会計論 II	2	3	ビジネス・エコノミクス	2	3	特講(証券の基礎と資産選択入門)	2	3
国際経済学特講 I	2	1	国際経済学特講 II	2	3	コミュニケーション論 III	2	2
コミュニケーション論 IV	2	2	宗教文化論 I	2	2	宗教文化論 II	2	2
日本文化論	2	2	韓国文化論	2	2	イギリス文化論	2	2
フランス文化論	2	2	ドイツ文化論	2	2	スペイン文化論	2	2
イスラム文化論	2	2	アングロ・アメリカ文化論	2	2	イベロ・アメリカ文化論	2	2
ヨーロッパ文化論 I	2	3	ヨーロッパ文化論 II	2	3	中国文化論	2	3
ロシア東欧文化論	2	3	文化と歴史観	2	3	インターナショナルトレーニング	2	3
社会言語学特講	2	2	認知言語学入門	2	3	言語形式と意味	2	3
多言語社会とコミュニケーション	2	3	コミュニケーションの質的分析法 I	2	2	コミュニケーションの量的分析法 I	2	2
コミュニケーションの質的分析法 II	2	3	コミュニケーションの量的分析法 II	2	3	ディスコース分析	2	2
国際交流実務論	2	1	アジア政治入門	2	1	環太平洋政治入門	2	1
アメリカ政治入門	2	1	ヨーロッパ政治入門	2	1	中東政治入門	2	1
アフリカ政治入門	2	1	地域研究(アジア経済) I	2	2	地域研究(アジア経済) II	2	2
地域研究(アメリカ経済)	2	2	地域研究(EU経済)	2	2			

## 総合文化政策学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
経済分析(ミクロ)	2	3・4	経済分析(マクロ)	2	3・4	公共社会論	2	3・4
金融概論	2	3・4	行政学概論	2	3・4	国際関係	2	3・4
公共政策論	2	3・4	憲法概論	2	3・4	民法概論	2	3・4
行政法概論	2	3・4	著作権法	2	3・4	国際政治学概論	2	3・4
経済発展論	2	3・4	国際平和論	2	3・4	経済政策概論	2	3・4
公共経済学概論	2	3・4	文化経済学	2	3・4	文化行政法	2	3・4
文化産業概論	2	3・4	觀光産業論	2	3・4	消費経済論	2	3・4
日本経済概論	2	3・4	マーケティング概論	2	3・4	会計学	2	3・4
サービスマーケティング概論	2	3・4	消費文化論	2	3・4	経営戦略概論	2	3・4
組織と人材の管理	2	3・4	経営情報論	2	3・4	管理会計概論	2	3・4
経営分析論	2	3・4	非営利会計論	2	3・4	プロジェクトマネジメント論	2	3・4
ビジネスプロセスマネジメント論	2	3・4	マーケティング戦略論	2	3・4	ブランド戦略論	2	3・4
公共経営論	2	3・4	文化財保護法	2	3・4	プロジェクトプロデュース論	2	3・4
世界経済概論	2	3・4	社会調査論Ⅰ	2	3・4	社会調査論Ⅱ	2	3・4
統計学	2	3・4	社会調査法Ⅰ	2	3・4	社会調査法Ⅱ	2	3・4
社会統計学	2	3・4	社会調査実習	4	3・4	文化人類学概論	2	3・4
日本文化の歴史	2	3・4	異文化間コミュニケーション論	2	3・4	表象文化概論	2	3・4
社会分析学	2	3・4	宗教史	2	3・4	社会思想史	2	3・4
経済と文明	2	3・4	比較文明論	2	3・4	地域文化論(1)	2	3・4
地域文化論(2)	2	3・4	地域文化論(3)	2	3・4	宗教文化概論	2	3・4
宗教社会学	2	3・4	比較宗教論	2	3・4	ネットワーク社会と文化	2	3・4
文化遺産論	2	3・4	経営文化論	2	3・4	文化と精神分析	2	3・4
現代日本文化論	2	3・4	近代哲学史	2	3・4	論理学	2	3・4
公共哲学概論	2	3・4	認識論	2	3・4	存在論	2	3・4
象徴記号論	2	3・4	情報環境論(1)	2	3・4	情報環境論(2)	2	3・4
メディアリテラシー	2	3・4	宗教哲学	2	3・4	社会倫理	2	3・4
日本思想史概論	2	3・4	現代哲学	2	3・4	現代思潮	2	3・4
現代の神学	2	3・4	認知哲学	2	3・4	環境美学	2	3・4
芸術哲学	2	3・4	情報工学	2	3・4	※ミュージアム概論	2	2・3のみ
※ミュージアム経営論	2	2・3のみ	※ミュージアム資料論	2	2・3のみ	※ミュージアム資料保存論	2	2・3・4
※ミュージアム展示論	2	2・3・4	※ミュージアム教育論	2	2・3・4	※ミュージアム情報・メディア論	2	2・3・4
※ミュージアム実習Ⅰ	2	3のみ	※ミュージアム実習Ⅱ	2	4のみ			

※学芸員資格取得希望申請者のみ

## 他学部科目一覧表

### 理工学部

授業科目	単位	配置年次	授業科目	単位	配置年次	授業科目	単位	配置年次
現代物理学概論	2	2・3・4	一般電気工学	2	2・3・4	一般機械工学	2	2・3・4
経営システム工学特別講座	2	2・3・4	情報と社会	2	2・3・4			

### 社会情報学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
社会統計	2	2・3	社会統計演習	2	2・3	情報化社会と法	2	3・4
心理学特別講義	2	2・3・4	合理的思考と社会行動	2	2・3・4	情報政策	2	3・4
※地域スポーツ演習	2	2・3・4	※生涯スポーツ演習	2	2・3・4	※健康スポーツキャリア演習A	2	2・3・4
※健康スポーツキャリア演習B	2	2・3・4	※スポーツビジネスキャリア演習A	2	2・3・4	※スポーツビジネスキャリア演習B	2	2・3・4
※スポーツキャリア基礎A	1	2・3・4	※スポーツキャリア基礎B	1	2・3・4	※スポーツ健康科学基礎	1	2・3・4
※スポーツ傷害学基礎	1	2・3・4	※健康スポーツ統計学基礎	1	2・3・4	※スポーツ倫理学基礎	1	2・3・4

※体育会所属学生、または競技スポーツにおいて一定基準以上の経験を有し、特別に許可された学生のみ履修可

### 地球社会共生学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
Introduction to Japanese Culture	2	1・2・3・4	Traditional Art and Culture in Modern Japan	2	1・2・3・4	Cool Japan: Contextualizing Contemporary Popular Culture	2	1・2・3・4
Modern Japanese History: From Samurai Age to Modernity	2	1・2・3・4	War Memory in Modern Japan	2	1・2・3・4	Introduction to Japanese Politics and Society	2	1・2・3・4
Issues in Modern Japanese Education	2	1・2・3・4	Lifestyle and Society in Japan	2	1・2・3・4	Economic and Industrial Development Policy in Postwar Japan	2	1・2・3・4
Financial Systems and Economic Development in Postwar Japan	2	1・2・3・4	Japanese Economic Cooperation with Developing Countries	2	1・2・3・4	Travel and Tourism in Contemporary Japan	2	1・2・3・4
Surveying and Cartography in Japan	2	1・2・3・4	New Frontiers in Geospatial Gaming	2	1・2・3・4	Advanced Resilient Communities against Disaster	2	1・2・3・4
Drone Journalism	2	1・2・3・4						

### コミュニティ人間科学部

コミュニティ人間科学部の一部の科目について、単位を修得した場合、他学部の科目の修得ができない科目があります。履修をする際は、注意してください。

開講学部	授業科目	
コミュニティ人間科学部	コミュニティ文化継承施設論	いずれか1科目のみ修得可
文学部史学科	博物館概論*	
総合文化政策学部	ミュージアム概論*	いずれか1科目のみ修得可
コミュニティ人間科学部	コミュニティ文化資源概論	
文学部史学科	博物館資料論*	いずれか1科目のみ修得可
総合文化政策学部	ミュージアム資料論*	
コミュニティ人間科学部	コミュニティ文化資源活用論	いずれか1科目のみ修得可
文学部史学科	博物館情報・メディア論*	
総合文化政策学部	ミュージアム情報・メディア論*	いずれか1科目のみ修得可
コミュニティ人間科学部	コミュニティ文化資源保存論	
文学部史学科	博物館資料保存論*	いずれか1科目のみ修得可
総合文化政策学部	ミュージアム資料保存論*	
コミュニティ人間科学部	地域博物館経営論	いずれか1科目のみ修得可
文学部史学科	博物館経営論*	
総合文化政策学部	ミュージアム経営論*	いずれか1科目のみ修得可
コミュニティ人間科学部	博物館教育論	
文学部史学科	博物館教育論*	いずれか1科目のみ修得可
総合文化政策学部	ミュージアム教育論*	
コミュニティ人間科学部	博物館展示論	いずれか1科目のみ修得可
文学部史学科	博物館展示論*	
総合文化政策学部	ミュージアム展示論*	

\*学芸員資格取得希望申請者のみ

## 他学部科目一覧表

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
地域学習社会論	2	1	地域行政原論	2	1	子ども活動支援原論	2	1・2
青少年活動支援原論	2	1・2	地域と子どもの成長	2	1・2	子どもの発達と健康	2	1・2
子どもの心理学的理解	2	1・2	幼児教育者支援論	2	2・3・4	青少年活動支援施設論	2	2・3・4
子ども・若者読書支援論	2	2・3・4	青少年活動支援団体論	2	2・3・4	子どもの貧困と社会的ケア	2	3・4
フリースクール論	2	3・4	次世代育成支援行政論	2	3・4	子ども体験活動論	2	3・4
青少年自然体験活動論	2	3・4	青少年文化芸術体験活動論	2	3・4	子ども家庭福祉論	2	3・4
青少年スポーツ活動論	2	3・4	コミュニティ人間科学特論A	2	3・4	コミュニティ人間科学特論B	2	3・4
コミュニティ人間科学特論C	2	3・4	コミュニティ人間科学特論D	2	3・4	女性活動支援原論	2	1・2
女性教育制度論	2	1・2	女性キャリア教育論	2	1・2	女性学習支援組織論	2	1・2
家庭教育支援論	2	1・2	女性の心理学的理解	2	2・3・4	ワークライフバランス論	2	2・3・4
地域と家族・子育て	2	2・3・4	地域活動とジェンダー	2	2・3・4	P T A活動論	2	3・4
女性社会活動論	2	3・4	生活者と法律	2	3・4	キリスト教と女性	2	3・4
女性と社会運動	2	3・4	女性と政治参加	2	3・4	女性と労働	2	3・4
女性と記録・表現	2	3・4	コミュニティ人間科学特論E	2	3・4	コミュニティ人間科学特論F	2	3・4
コミュニティ人間科学特論G	2	3・4	コミュニティ人間科学特論H	2	3・4	コミュニティ活動支援論	2	1・2
地域福祉論	2	1・2	地域生涯学習推進論	2	1・2	地域社会教育計画論I	2	1・2
地域社会教育計画論II	2	1・2	地域と教育専門職の社会学	2	2・3・4	地域図書館活動論	2	2・3・4
地域博物館活動論	2	2・3・4	地域福祉教育論	2	2・3・4	N P O組織論	2	3・4
地域障害者福祉論	2	3・4	地域高齢者福祉論	2	3・4	高齢者の心理学的理解	2	3・4
障害者の心理学的理解	2	3・4	ボランティア活動論	2	3・4	地域スポーツマネジメント論	2	3・4
スポーツ指導論	2	3・4	コミュニティ人間科学特論J	2	3・4	コミュニティ人間科学特論K	2	3・4
コミュニティ人間科学特論L	2	3・4	コミュニティ人間科学特論M	2	3・4	コミュニティ文化継承概論	2	1・2
コミュニティ情報継承概論	2	1・2	コミュニティ文化資源創出論	2	1・2	コミュニティ情報継承施設論	2	1・2
コミュニティ文化継承施設論	2	1・2	地域アーカイブ原論	2	2・3・4	コミュニティ情報資源概論	2	2・3・4
コミュニティ文化資源概論	2	2・3・4	地域資料構築論	2	2・3・4	コミュニティ情報資源検索論	2	3・4
コミュニティ文化資源活用論	2	3・4	地域出版・情報流通論	2	3・4	コミュニティ文化資源保存論	2	3・4
デジタルアーカイブ論	2	3・4	地域アーカイブ構築論I	2	3・4	地域アーカイブ構築論II	2	3・4
コミュニティ情報資源修復継承論	2	3・4	コミュニティ人間科学特論N	2	3・4	コミュニティ人間科学特論P	2	3・4
コミュニティ人間科学特論Q	2	3・4	コミュニティ人間科学特論R	2	3・4	コミュニティ創生計画論	2	1・2
地域教育文化制度論	2	1・2	地域教育文化政策史論	2	1・2	地域社会と社会科学	2	1・2
地域社会の形成と学力	2	1・2	地域共生原論	2	2・3・4	地域経済社会論	2	2・3・4
マイノリティ文化論	2	2・3・4	地域と教育の社会学	2	2・3・4	比較地域教育論	2	3・4
地域図書館経営論	2	3・4	地域博物館経営論	2	3・4	ノーマライゼーションの思想	2	3・4
社会的弱者と経済社会	2	3・4	市民形成論	2	3・4	地域異文化共生論	2	3・4
地域自然環境共生論	2	3・4	コミュニティ人間科学特論S	2	3・4	コミュニティ人間科学特論T	2	3・4
コミュニティ人間科学特論U	2	3・4	コミュニティ人間科学特論W	2	3・4	地域情報資源組織論※2	2	3・4
地域情報資源検索法I※2	2	3・4	地域情報資源検索法II※2	2	3・4	地域情報資源組織法I※2	2	3・4
地域情報資源組織法II※2	2	3・4	地域情報資源処理法※2	2	2・3・4	図書館情報学実習A※2	2	4
図書館情報学実習B※2	2	4	博物館教育論	2	3・4	博物館展示論	2	3・4
博物館実習I※3	2	3	博物館実習II※3	1	4	社会教育課題研究I※1	2	3・4
社会教育課題研究II※1	2	3・4	社会教育実習※1	1	3	地域社会調査論I	2	2・3・4
地域社会調査論II	2	2・3・4	地域社会調査論III	2	3・4	地域社会調査論IV	2	3・4
地域社会調査論V	2	3・4	地域社会調査実習I	1	3・4	地域社会調査実習II	1	3・4

※1社会教育主事資格取得希望申請者のみ

※2司書資格取得希望申請者のみ

※3学芸員資格取得希望申請者のみ

## V. 授業について

### 1. 授業

#### 授業時間

授業時間は次のとおりです。

第1時限	9:00～10:30
礼拝	10:30～11:00
第2時限	11:00～12:30
昼休み	12:30～13:20
第3時限	13:20～14:50
第4時限	15:05～16:35
第5時限	16:50～18:20
第6時限	18:30～20:00
第7時限	20:10～21:40

夕礼拝（火曜日のみ）
18:30～19:00

授業は原則5時限で実施します。しかし、科目配置の都合により6時限目以降にも配置することがあります。

また、特別な行事のときに授業時間が変更となることがあります。その場合は「学生ポータル」で伝達します。

#### 授業教室

授業教室については、「学生ポータル」上の『授業時間割表』に掲載されています。授業教室が変更になる場合は、随時「学生ポータル」で伝達しますので、毎日必ず確認してください。

#### 休講

授業が休講になる場合は、「学生ポータル」で伝達します。

休講情報がなく、授業開始から30分以上経過しても担当教員が来ず、連絡もない場合は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に問い合わせ、指示を受けてください。（学生共通細則第7条参照）。

#### 補講

休講となった授業に対し、補講を行う場合があります。補講は、学事暦に記載されている期間および授業期間中の主に水曜・土曜日に実施されます。上記指定日以外に補講を行う場合もありますが、補講に関する情報は、授業担当者または「学生ポータル」で発表しますので、随時確認してください。

#### 授業の欠席について

本学では、特定の理由による欠席を認める「公欠制度」は設けておりません。ケガ・病気・学校において予防すべき感染症による出席停止・忌引きなどで授業を欠席した場合は、次回の授業時に直接担当教員に申し出て、指示を受けてください。なお、長期にわたる欠席の場合は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に相談してください。

### 2. 大学からの伝達

本学では、大学から学生のみなさんへの通知や連絡は、主に「学生ポータル」によって行います。

また、利用方法の詳細については、「学生ポータル」右上部にある「インフォメーション」のアイコンより『学生ポータル利用案内』を参照してください。

「学生ポータル」では、授業・試験など学生生活に直接関係のある事項が隨時伝達されています。情報を確認しなかったことにより、後になって不利益を被ることのないよう、十分注意してください。また、電話による問い合わせには一切応じられませんので、質問などがある場合は直接窓口に来室してください。

### 3. 緊急時の 「授業の取り扱い」 および「伝達手段」 について

事故、災害などにより通常利用している交通機関の運行が停止した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

#### 1. 通常利用している交通機関運休時における対応

- (1) 代替交通機関を利用して登校が可能と判断できた場合には、危険な状況でない限り、極力、登校するよう努めてください。
- (2) 代替交通機関の利用ができず登校できなかった場合には、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に用意されている「交通機関不通による授業欠席届」に、交通機関などが発行した遅延証明書、事故証明書などを添えて授業担当者に提出して欠席分の学習補填の指示を受けてください。

#### 2. 台風の接近時などの対応

台風の接近などによる被害が予想される場合には、休講などの特別措置がとられることがあります。

#### 3. 大規模地震の発生が予想されるときの対応

- (1) 大規模地震対策特別措置法による「地震防災対策強化地域判定会」の招集が報道された時点で休校措置がとられます。
- (2) 警戒宣言が解除され、または「判定会」が解散されたときは、休校を解き、平常授業に戻ります。

#### 緊急時の情報提供

大学公式ウェブサイト <https://www.aoyama.ac.jp>

緊急時には、原則として「学生ポータル」では情報提供されません。

#### 4. 新しい感染症に対する本学の対応について

新型インフルエンザや新型コロナウイルスをはじめとする新しい感染症は、ほとんどの人が免疫を獲得していないため、世界的な大流行（パンデミック）となり、大きな健康被害とそれに伴う社会的影響をもたらします。昨今その種類も増加傾向にあり、学校における新たな危機管理項目として位置づけられています。

青山学院としては、国内における発生が認められた場合は、政府の対応・方針に準ずると共に、幼稚園から大学までの完全休校（休校の期間は1か月以上の長期に渡る可能性があります）も視野に入れた対応を決定の上、周知いたします。

休校の開始や解除の周知につきましては、大学公式ウェブサイト (<https://www.aoyama.ac.jp>) や学内一斉配信メール（学生ポータル等）、緊急連絡網、文書等でお知らせいたします。なお、各自におかれましても、新しい感染症に関する情報に注意し、政府の発表するフェーズ（警戒段階）によっては、登校を控えるなど感染予防に努めるようしてください。

# VI. 試験・レポートについて

授業科目の履修状況を評価し単位を認定するため、試験が行われます。試験は、筆記のほかに、科目によっては、論文、レポート、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法で行われることもあります。

試験は、受験資格のある学生のみ受験できます。

受験資格は、以下のとおりです。

- ① 受験する授業科目を履修登録していること
- ② 学費を納入済みであること

なお、学期を通じ欠席の多い学生は、その科目の受験資格を失うことがあります（学生共通細則第7条参照）。

## 1. 試験の種別

### 定期試験

前期末、後期末に期間を定めて実施する試験を定期試験といいます。

試験時間割は、試験開始日の約2週間前に「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、隨時確認してください）。試験実施教室や時間割は通常授業時と異なります。

### 平常試験

定期試験期間以外の、平常の授業時間に行う試験を平常試験といいます。この場合、担当者によって実施日その他詳細が決定されます。情報は授業教室・Course Power等にて担当者より発表されるか、場合によって「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、隨時確認してください）。

### レポート

レポートの情報は授業教室・Course Power等にて担当者より発表されるか、場合によって「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、隨時確認してください）。テーマ、用紙、枚数、提出期限、提出方法など、すべて担当者の指示に従ってください。

提出先として各キャンパスの教務窓口設置の提出ボックスまたは青山スタンダード教育機構室を指定される場合もあります。

論文やレポートはオリジナルなものであることが不可欠です。もし他人の発言や文章に拠った場合は、必ずその旨を記載してください。そうでない場合は、剽窃（他人の文章を盗むこと）と判断され、不正行為となりますので、ご注意ください。

### 追試験

定期試験に限り、病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生に対して行われる試験を追試験といいます。受験資格は厳密に定められており、自己の不注意によって受験できなかった場合および公的な証明書のない場合は、追試験を受けることはできません。

資格および申請方法などについては後述の「3. 追試験の受験」を参照してください。なお、出席日数不足など、担当者の判断によって追試験の受験が認められない場合があります。

定期試験期間中は、試験の有無にかかわらず、定期試験期間最終日まで予定（旅行など）を入れないでください。

また、やむを得ず追試験の申請をすることも想定し、追試験実施日（学生ポータルで発表）にも留意してください。

## 2. 定期試験の受験

### 定期試験時間

定期試験時間割は以下のとおりです。授業時間割とは異なるので注意してください。

定期試験科目配置上、5時限で実施できないことが起きた場合のみ6・7時限目にも配置します。

試験時間は原則として60分です（理工学部・社会情報学部専門科目のみ最長85分の場合があります）。

第1時限	9：30～10：30
第2時限	11：10～12：10
第3時限	13：10～14：10
第4時限	14：50～15：50
第5時限	16：30～17：30
第6時限	18：20～19：20
第7時限	19：40～20：40

### 受験上の注意

受験上の注意は以下の通りです。あらかじめよく読んでおいてください。

試験教室で配布される受験票は、試験を受けた証拠になりますので学年・クラス番号等、正確に記入してください。答案用紙の学年・クラス番号を正しく記入しない場合、担当教員の成績報告に支障をきたすことがあります。また指定されたクラス・試験教室で必ず受験してください。

#### 受験上の注意

1. 監督者の指示に従うこと。
2. 机の空いている限り、一机一名で着席すること。
3. 机上等に書き込みがある場合は、開始前に申し出ること。
4. 学生証はケースから出し、通路側の机上に置くこと。**※注**
5. 以下の行為は、不正行為に該当するので充分留意すること。
  - ① 受験資格のない者の受験（代人も含む）。
  - ② 答案の交換及び他人の答案を盗み見ること。
  - ③ カンニングペーパー（縮小コピー）等の準備および使用。
  - ④ 答案用紙を提出せずに試験場から退室すること。
  - ⑤ 机の中にノート、コピー、文献等を開いたまま置くこと。
  - ⑥ 所持品やかばん、透明ファイルケース等の中身が見える形のまま、身の回りに置くこと。
6. 机上には、許可された文献類および筆記用具以外は置かないこと。  
なお、筆箱・ペンケース等も置いてはならない。
7. 携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電子機器類の電源を切り、かばん等に入れておくこと。なお、これらの電子機器類は時計として使用できない。
8. 試験終了前に退室する場合は、他の受験者の妨げにならないよう留意すること。
9. 不正行為は恥ずべき行為であり大学として厳重に対処する。

#### ※注 学生証を提示しない学生は受験できません。

- ・試験当日学生証を忘れた場合、相模原キャンパスでは学務課、青山キャンパスでは学務部教務課で学生カードを受け取り受験してください。学生カードの使用については以下の点に注意してください。
  - a. 学生カードは、試験受験以外には一切利用できません。
  - b. 学生カードは発行日に限り記載者本人のみ有効です。使用後は自己の責任において適切に処分してください。
- ・試験開始後20分以上の遅刻者は受験できません。また試験開始後30分を経過するまで退室

	できません。																
<b>3. 追試験の受験</b>																	
<b>申請資格</b>	<p>定期試験を病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかつた学生のみ申請することができます。</p> <p>以下の場合には追試験の対象とはなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 自己の不注意（時間割の見間違い・変更情報の見落としなど）によって受験できなかつた場合</li> <li>② 公共交通機関以外を利用した場合の、天候や交通事故などによる道路の渋滞、車両の故障を理由とする遅刻・欠席の場合</li> <li>③ 平常試験（定期試験以外の試験を指す）の場合</li> <li>④ 定期試験を受験した場合</li> </ul>																
<b>申請方法</b>	<p>申請の日程、追試験日程については、定期試験前に「学生ポータル」で発表します。</p> <p>追試験の受験を希望する学生は、<a href="#">直接、授業科目の開講キャンパスの教務窓口</a>（巻末参照）で、<b>定められた期間に申請してください</b>。当該授業科目開講キャンパス以外の教務窓口では申請できません。</p> <p>申請時には、当該試験の受験が不可能であったことを証明する公的な書類を持参してください。公的な書類は、<b>学生氏名、定期試験を受験できなかつた日時、理由、証明者名の記載および証明者印のあるもの</b>に限ります。<b>コピーは不可です</b>。「追試験願」用紙を交付しますので、その場で記入し、持参した書類とともに提出してください。なお、受験料は無料です。</p> <p>欠席理由と、それを示す証明書は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>理由</th><th>証明書</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病気</td><td>医師の診断書（通院・入院・安静期間などの記載のあるもの）</td></tr> <tr> <td>忌引（両親、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子供） ※法事は忌引に含めない</td><td>死亡に関する公的証明書および保証人などによる続柄の証明（要押印） または、 葬儀に参列したことを示す会葬礼状（日付が明記されているもの） および保証人などによる続柄・参列の証明（要押印）</td></tr> <tr> <td>就職試験</td><td>就職試験の受験を証明するもの（受験票では不可）</td></tr> <tr> <td>災害（台風、地震、水害、火災など）</td><td>官公庁による被災証明書</td></tr> <tr> <td>交通関係（遅延）</td><td>交通機関などの証明書（通学路線に限る。遅延当日必ず教務窓口で指示を受けること）</td></tr> <tr> <td>教育実習</td><td>教育実習参加証明書（教職課程課・学務課にて発行）</td></tr> <tr> <td>科目の時限重複</td><td>定期試験実施前に教務窓口で指示を受けること</td></tr> </tbody> </table> <p>上記以外の理由または、公的な証明書がない場合については、事前に<b>「追試験受験資格審査」</b>を受けてください。審査で認められた場合のみ申請することができます。</p> <p>原則として60分で実施し、答案は100点満点で採点されます。</p> <p>不正行為を行つた学生は、以下に示す『試験における不正行為者処分規則』が適用され、単位を修得することができません。科目によっては4年間で卒業することが不可能になります。</p> <p>青山学院規則集『試験における不正行為者処分規則』より抜粋</p> <p><b>第3条 不正行為者の処分内容</b>は、学則に基づく懲戒処分（訓告、停学、退学）とするほか</p>	理由	証明書	病気	医師の診断書（通院・入院・安静期間などの記載のあるもの）	忌引（両親、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子供） ※法事は忌引に含めない	死亡に関する公的証明書および保証人などによる続柄の証明（要押印） または、 葬儀に参列したことを示す会葬礼状（日付が明記されているもの） および保証人などによる続柄・参列の証明（要押印）	就職試験	就職試験の受験を証明するもの（受験票では不可）	災害（台風、地震、水害、火災など）	官公庁による被災証明書	交通関係（遅延）	交通機関などの証明書（通学路線に限る。遅延当日必ず教務窓口で指示を受けること）	教育実習	教育実習参加証明書（教職課程課・学務課にて発行）	科目の時限重複	定期試験実施前に教務窓口で指示を受けること
理由	証明書																
病気	医師の診断書（通院・入院・安静期間などの記載のあるもの）																
忌引（両親、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子供） ※法事は忌引に含めない	死亡に関する公的証明書および保証人などによる続柄の証明（要押印） または、 葬儀に参列したことを示す会葬礼状（日付が明記されているもの） および保証人などによる続柄・参列の証明（要押印）																
就職試験	就職試験の受験を証明するもの（受験票では不可）																
災害（台風、地震、水害、火災など）	官公庁による被災証明書																
交通関係（遅延）	交通機関などの証明書（通学路線に限る。遅延当日必ず教務窓口で指示を受けること）																
教育実習	教育実習参加証明書（教職課程課・学務課にて発行）																
科目の時限重複	定期試験実施前に教務窓口で指示を受けること																
<b>追試験時間・採点</b>																	
<b>4. 不正行為</b>																	

不正行為を行った授業科目、当該授業科目を含む数科目または全授業科目の履修届を無効とする。

**第4条 不正行為者の氏名および処分は学内に掲示し、本人および保証人へ通知する。**

不正行為とは、『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条に定められた、以下の行為をいいます。

- ① 代人として受験することまたは代人に受験させること。
- ② 答案を交換すること。
- ③ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）の用意またはそれらを使用すること。
- ④ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）を廻し見すること。
- ⑤ 使用が許可されていない文献等を使用すること。
- ⑥ 使用が許可されている文献等を貸借すること。
- ⑦ 所持品、身体、机、壁等に解答およびそれに類するものを書き込むこと。
- ⑧ 答案を写させること、または写しとること。
- ⑨ 他人の答案を盗み見ること。
- ⑩ 声、動作等で解答を伝達すること、または伝達を受けること。
- ⑪ 受験資格のない者が受験すること。
- ⑫ 他人の学生証を使用して受験すること。
- ⑬ 偽名または故意により無記名答案を提出すること。
- ⑭ 答案を提出しないこと。
- ⑮ 監督者の指示や注意に従わないこと。
- ⑯ その他上記各号に類すると認められる行為。

## VII. 成績評価について

### 成績評価

学業成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、レポート、論文、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法）によって評価されます。

本学の成績は100点法によって評価されます。60点以上が合格とされ、所定の単位が与えられます。

成績証明書および成績通知書にはAA、A、B、Cの表記が用いられます。ただし、「情報スキルⅠ」、指定の海外研修等については、所定の単位が与えられた場合、成績証明書には「RR」、成績通知書には「合格」と表示されます。

実点数範囲	学生への成績通知	成績証明書の記載
100～90	AA	AA
89～80	A	A
79～70	B	B
69～60	C	C
59以下または不合格	XX	表示せず
欠席等評価不能※	X	表示せず
「情報スキルⅠ」、海外研修等による単位修得	合格	RR

※試験未受験、レポート未提出、出席不良等で評価不能であることを表します。

### G.P.A.

G.P.A. (Grade Point Average) とは、学生の履修登録科目の1単位あたりの評点平均値を指します。これは、欧米で広く用いられている世界標準的な成績評価方法で、本学では給付奨学金の候補者選出、学位授与式の総代選出、本学大学院進学などの際に活用されています。

履修した科目には、A、B、C、XXなどの成績が与えられます。これらの評価を数値化して1単位ごとの平均を算出したものがG.P.A.です。ただし、修得単位が基準単位を満たしていない場合は、G.P.A.が算出されず、G.P.A.順位付けの対象外となります。

(基準単位=卒業要件単位の合計÷(最短修業年限)×学年を四捨五入)

本学では、各評価に与えられる評点は次のとおりです。

#### G.P.A. 算出対象評価

本学評価	評点
AA	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
XX(不合格)	0.0
X (欠席等評価不能)	0.0

上記の評点を次の計算式に当てはめてG.P.A.を算出します。

$$G.P.A. = \frac{(AA \text{ の単位数} \times 4 + A \text{ の単位数} \times 3 + B \text{ の単位数} \times 2 + C \text{ の単位数} \times 1)}{(AA \text{ の単位数} + A \text{ の単位数} + B \text{ の単位数} + C \text{ の単位数} + XX \text{ の単位数} + X \text{ の単位数})}$$

※理工・社会情報学部は、教職課程科目をG.P.A.算出の対象外とします。

※「情報スキルⅠ」、指定の海外研修等は、G.P.A.算出の対象外とします。

※履修取消した科目は、G.P.A.算出の対象外とします。

(本学はG.P.A.の対外的公表は一切行っておりません。)

## 成績通知

学生の成績評価は、9月上旬および3月上旬に学生ポータルメニュー「成績通知書」にてお知らせします。学外PCから閲覧する場合は、あらかじめ学内でSecure Matrix パスワードの登録を済ませておく必要があります。(詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照してください。) **成績通知書は各自で印刷し、修得した科目とその評価を確認してください。**

## 成績調査

成績調査は講義内容の成績評価方法に照らして、実際の評価に疑問を持つ場合に申立てができる制度です。これは科目担当者に対して、安易に評価の再考・変更を求めるものではありません。講義内容の成績評価方法を挙げ、客観的かつ具体的に疑問点を述べられる場合にのみ申請をしてください。

大学が指定する調査期間中に、申請者本人が申し出てください。調査期間および申請方法は「学生ポータル」でお知らせします。

**電話での問い合わせ、期間外の申し出には一切応じません。**

## VIII. 進級および卒業について

**進 級** 進級するためには、休学期間を除いた所定の在学期間を満たす必要があります。加えて、所属する学部ごとにそれぞれ進級条件がありますので、「IV. 学部履修要項」の各学部、学科の**進級条件**の項を参照してください。

**卒 業** 本学に4年（8期）以上在学（休学期間を除く）し、なおかつ4年次に1年（2期）以上の在学が必要です。その上で、各学部で定められた卒業に必要な単位を修得した者に卒業が認められ、学士の学位が授与されます。なお、休学期間に中に卒業することはできません。  
※卒業の時期は4年次3月とし、卒業発表は3月上旬に行います。卒業の可否は必ず本人が確認してください。電話による問い合わせには一切応じておりません。

**9月卒業** 上記の卒業の条件を満たした場合、願い出によって4年次の9月に卒業できる制度があります。

- (1) 希望者は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）で相談し、「9月卒業希望届」を定められた期間に提出してください。期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。
- (2) 前期で卒業要件単位を修得した場合でも、「9月卒業希望届」の提出がなければ9月卒業できません。
- (3) 学費については、本学の庶務部経理課に問い合わせてください。

**卒業延期制度** 4年次に在学する学生が卒業要件を満たし、具体的な勉学継続計画、国家試験受験等明確な理由、目的を有したうえで、在学期間を延長して学修継続を希望する場合、卒業の延期を認めて学修継続の機会を与える制度です。

- (1) 希望者は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）で相談し、「卒業延期許可願」、「学修計画書」、「誓約書・保証書」を定められた期間に提出してください。
- (2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。
- (3) 学費については、本学の庶務部経理課に問い合わせてください。
- (4) 卒業延期制度適用者は、所属学部が認める範囲内で、1科目以上の授業科目を履修しなければなりません。ただし、教職課程科目については履修することができません。

## IX. 証明書について

種類	問い合わせ窓口	
	青山キャンパス	相模原キャンパス
①在学証明書		
②成績証明書		
③履修科目証明書 ※1	教務課	学務課
④卒業見込証明書 ※2		
⑤学力に関する証明書		
⑥教員免許状取得見込証明書	教職課程課	学務課 教職課程担当
⑦各種資格取得見込証明書		
⑧健康診断証明書	健康管理センター	

※1 履修科目証明書について、履修取消制度を適用した科目は、「履修科目証明書」には記載されなくなります。

ただし、当該年度の申請単位数には含まれるため、実際の申請単位数と「履修科目証明書」に記載される申請総単位数が不一致となるので注意してください。

※2 卒業見込証明書は、各学部学科における卒業に必要な最低単位数から3年次終了時までに修得した単位数を引いた単位数が、当該年度の最高履修制限単位内であれば、発行されます。

履修順序がある必修科目が履修できない等により、卒業できないことが確定している場合でも上記条件を満たしていれば卒業見込証明書は発行されますので、注意してください。

- 注意 -
  - ・スケジュール等詳細は学生ポータルを参照してください。
  - ・提出先が定めた指定書式による証明書が必要な場合は、別途各所属キャンパスの証明書取扱窓口まで問い合わせてください。
  - ・証明書用封筒は学務部教務課（青山キャンパス）・学務課（相模原キャンパス）又は、健康管理センター窓口でお渡しします。また、厳封が必要な場合は窓口に申し出てください。
  - ・上記以外の証明書が必要な場合は窓口で相談してください。

## X. 学籍について

		内 容	取扱・問い合わせ窓口
修業年限		本学の教育課程を修了するために必要な最低修業年限は、4年です。	学則第35条参照
在学年限		① 本学に在学できる期間は、休学期間を除き8年です。 ② 2年次編入学生、2年次転学部・転学科生の在学年限は6年です。 ③ 3年次編入学生、3年次転学部・転学科生の在学年限は4年です。 ④ 再入学者の在学年限は、退学以前を加えて8年です。 ⑤ 編入学または転学部・転学科をした再入学者の在学年限は、退学以前を加え、編入学または転学部・転学科学生の在学年限を越えることはできません。	学則第36条参照
休 学 期 間	休学期間	① 休学期間は、通年（1年間）、前期、後期の3種類があり、1年または1学期ごとに更新しなければなりません。 ② 休学期間は連続2年までとしますが、特にやむを得ない場合は、審議をしたうえで、連続して3年まで認めることができます。 ③ 休学期間は通算して3年を超えることはできません。 ④ 休学期間は在学期間に算入しません。	学則第29・36条参照
休 学	休学をするには	病気その他やむを得ない理由で休学しようとする学生は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「休学願」（大学所定用紙）（保証人連署）の提出 ② 学生証の提示 ③ 休学費の納入	(手続き) ⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照） 学則第28条参照  (休学費) ⇒学費・奨学金課 (青山キャンパス) ⇒学生生活課 (相模原キャンパス) 学費納付規則第13条参照
休 学 願 の 提 出 期 限	休学願の提出期限	「休学願」の提出期限は次のとおりです。	⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）
	休学期間	提出期限	
	通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日
	前期休学	4月1日～9月30日	6月末日
	後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日
復 学	復学をするには	休学者が復学を希望する場合、大学所定の「復学願」を提出し、教授会の承認を経て復学することができます。休学期間満了の約2ヶ月前に、学務部教務課（相模原キャンパスは学務課）から次期の復学・休学の継続などについての問い合わせをします。なお、復学が承認された場合の年次は、休学の時期や期間によって異なります。詳細は所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に問い合わせてください。	⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）  学則第30条参照

		内 容	取扱・問い合わせ窓口
退 学	退学の期日	退学の期日は、学費の納付期間によって異なります。前期分まで納付している場合は9月30日付、後期分まで納付している場合は3月31日付となります。	学費納付規則第15条参照
	退学をするには	病気その他やむを得ない事情で退学を希望する場合は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「退学願」(大学所定用紙)(保証人連署)の提出 ② 学生証の提出 ③ 退学期日を含む学期までの学費の納入	⇒所属キャンパスの教務窓口(卷末参照)  学則第32条参照
再入学		退学した後に再入学を願い出た場合、事情を審査のうえ相当年次に再入学を許可することがあります。願い出をするためには以下のようない条件があります。 ① 再入学の願い出ができる期間は、原則として退学した日から2年以内とし、「再入学願」は1月中旬～1月末日(要問い合わせ)の間に所属キャンパスの教務窓口(卷末参照)に提出してください。 ② 再入学できる時期は、学年の初めとします。	⇒所属キャンパスの教務窓口(卷末参照)  学則第27条参照
二重学籍	二の重禁止籍	本学学生は、他大学および本学他学部または他学科と併せて在学することはできません。	学則第27条の2参照
除籍	転学部とは	学費を期限内に納入しない、履修登録をしない、などの場合は修学の意思がないものとして除籍され、本学学生としての身分を失うことになります。なお、除籍者に対しては、以後、在学中の修得単位・成績の証明などは一切行いません。また、再入学の資格も失うことになります。	学則第34条参照
転学部・ 転学科	転学部とは	所属学部から文学部、教育人間科学部、法学部、国際政治経済学部、社会情報学部へ学部を移ることです。転学部を願い出た場合には、選考の上、当該学部への転学部を許可することができます。許可された場合、転学部届の提出が必要となります。	⇒所属キャンパスの教務窓口(卷末参照)  学則第26条参照
	転学科とは	同一学部内で学科を移ることです。文学部、教育人間科学部、国際政治経済学部の学生で転学科を願い出た場合には、選考の上、当該学科への転学科を許可することができます。許可された場合、転学科届の提出が必要となります。	(詳細については、本学ウェブサイトに7月以降掲出予定の「試験要項」を確認してください。)

## XI. 教職課程（教員免許状・各種資格）について

### 1. 本学で取得可能な 教育職員免許状

(取得可能な教員免許状の種類・教科(学部・学科別))

本学で取得可能な教員免許状の種類・教科は次のとおりです。

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類 ・ 教 科
文学部	英米文学科	中学校教諭1種免許状（英語） 高等学校教諭1種免許状（英語）
	フランス文学科	中学校教諭1種免許状（フランス語） 高等学校教諭1種免許状（フランス語）
	日本文学科	中学校教諭1種免許状（国語） 高等学校教諭1種免許状（国語）
	史学科	中学校教諭1種免許状（社会） 高等学校教諭1種免許状（地理歴史）
教育人間科学部	教育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状（国語・社会・英語） 高等学校教諭1種免許状 (国語・地理歴史・公民・英語)
理工学部	物理科学科	中学校教諭1種免許状（理科） 高等学校教諭1種免許状（理科）
	数理サイエンス学科	中学校教諭1種免許状（数学） 高等学校教諭1種免許状（数学）
	化学・生命科学科	中学校教諭1種免許状（理科） 高等学校教諭1種免許状（理科）
	電気電子工学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
	機械創造工学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
社会情報学部	情報テクノロジー学科	高等学校教諭1種免許状（情報）
	社会情報学科	中学校教諭1種免許状（数学） 高等学校教諭1種免許状（数学・情報）

### 2. 教員免許状の 取得希望申請に ついて

教員免許状の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に履修登録システムから「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。申請を行わなければ履修できない科目がありますので注意してください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に行うものであり、教職課程履修継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。なお、後期履修登録期間は履修登録システムから教職・各種資格申請はできないので注意してください。後期より申請の追加を希望する場合は、教職課程課（相模原キャンパスは学務課教職課程担当）窓口にて相談してください。

### 3. 教職課程料の 納付について

履修登録システムから教員免許状の申請登録をすると、申請した年度ごとに後期学費納付時に教職課程料を納付することになります。たとえ教職課程科目の履修登録をしなくても、教員免許状の申請登録によって教職課程料が後期学費に加算されますので、各自の責任において免許教科を確認し、熟考の上申請をしてください。また、申請登録の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納付された教職課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、教職課程料の納付時期は9月となります。

## 4. 教職課程履修について

### 履修上の注意

教職課程の履修は、1年次の年度初頭に開催される教職課程オリエンテーションで配付される入学年度適用の『教職課程履修の手引』に従ってください。また、履修方法・科目名称の変更などについては、年度初頭に開催される2年次生対象教職課程オリエンテーションと3年次生および4年次生対象教育実習・教職実践演習説明会で資料を配付しますので、必ず出席し確認してください。

教職課程関係のオリエンテーション・説明会および手続などの詳細については、年度初頭行事日程（学生ポータルに掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席することや、指定期間内に介護等体験登録、教育実習Ⅱ・教職実践演習予備登録、教員免許状大学一括申請などの手続を行わないことで、卒業時までに教員免許状を取得できない事態に陥ることがありますので、遗漏のないよう自己管理してください。

### 履修順序のある科目

教員免許状取得のための科目には、次ページ以下のとおり「履修順序」が定められたものがあります。詳細については、『教職課程履修の手引』の該当する学部・学科別の免許教科の項を併せて参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な教員免許状の校種・教科は、「1. 本学で取得可能な教育職員免許状」の表のとおりです。

(教員免許状取得に必要な科目的履修順序)

幼稚園教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育制度概説 教育心理学概説	教職論（初等）	保育内容教育法を3教科以上	幼児教育実習Ⅰ	幼児教育実習Ⅱ 教職実践演習(幼・小)

小学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育制度概説 教育心理学概説	教職論（初等）	初等教科教育法を4教科以上	初等教育実習Ⅰ	初等教育実習Ⅱ 教職実践演習(幼・小)

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階	
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる	
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)	
教育原理A 教育原理B 教育心理（中等）	教職論（中等）	中等教育実習Ⅰ 〔国語科教育法A〕又は〔国語科教材論A〕 〔国語科教育法B〕又は〔国語科教材論B〕 〔社会科教育法A〕又は〔社会科教材論A〕 〔社会科教育法B〕又は〔社会科教材論B〕 〔地理歴史科教育法〕又は〔地理歴史科教材論〕 〔公民科教育法〕又は〔公民科教材論〕 〔英語科教育法A〕又は〔英語科教育法特論A〕 〔英語科教育法B〕又は〔英語科教育法特論B〕(注1) 〔フランス語科教育法A〕又は〔フランス語科教育法特論A〕 〔フランス語科教育法B〕又は〔フランス語科教育法特論B〕(注2) 〔理科教育法A〕又は〔理科教材論A〕 〔理科教育法B〕又は〔理科教材論B〕 〔数学科教育法A〕又は〔数学科教材論A〕 〔数学科教育法B〕又は〔数学科教材論B〕 〔工業科教育法A〕 〔工業科教育法B〕 〔情報科教育法〕又は〔情報科教材論〕			中等教育実習Ⅱ A 中等教育実習Ⅱ B 教職実践演習(中・高)

(注1) 英米文学科の学生は、学科科目である「英語科教育法A」「英語科教育法B」「英語科教育法特論A」「英語科教育法特論B」を履修順序に関係なく履修することができますが、上表に記載のとおり、4年次に第3段階に設定されている科目を履修するためには、2年次終了時までに第1段階に設定されている科目を、3年次終了時までに第2段階に設定されている科目を修得する必要があります。

(注2) フランス文学科の学生は、学科科目である「フランス語科教育法A」「フランス語科教育法B」「フランス語科教育法特論A」「フランス語科教育法特論B」を履修順序に関係なく履修することができますが、上表に記載のとおり、4年次に第3段階に設定されている科目を履修するためには、2年次終了時までに第1段階に設定されている科目を、3年次終了時までに第2段階に設定されている科目を修得する必要があります。

## 5. 教職課程科目

### 配置表

文学部

教育人間科学部

理工学部

社会情報学部

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。

	科目名	単位数	配置年次	
教職課程科目	教育原理 A	2	1	
	教職論（中等）	2	2	
	教育原理 B	2	1	
	教育心理（中等）	2	1	
	特別支援教育概論（中等）	2	2	
	教育課程編成法（中等）	2	3	
	国語科教育法 A	2	3	
	国語科教育法 B	2	3	
	国語科教材論 A	2	3	
	国語科教材論 B	2	3	
	社会科教育法 A	2	3	
	社会科教育法 B	2	3	
	社会科教材論 A	2	3	
	社会科教材論 B	2	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法 A	2	3	
	英語科教育法 B	2	3	
	英語科教育法特論 A	2	3	
	英語科教育法特論 B	2	3	
	理科教育法 A	2	3	
	理科教育法 B	2	3	
	理科教材論 A	2	3	
	理科教材論 B	2	3	
	数学科教育法 A	2	3	
	数学科教育法 B	2	3	
	数学科教育法特論 A	2	3	
	数学科教育法特論 B	2	3	
	工業科教育法 A	2	3	
	工業科教育法 B	2	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道徳教育指導法（中等）	2	3	
	特別活動・総合的な学習の時間（中等）	2	3	
	情報通信技術の活用と教育方法（中等）	2	3	
	生徒・進路指導論（中等）	2	3	
	教育相談（中等）	2	3	
	幼児教育実習 I	1	3	
	幼児教育実習 II	4	4	
	初等教育実習 I	1	3	
	初等教育実習 II	4	4	
	中等教育実習 I	1	3	
	中等教育実習 II A	2	4	
	中等教育実習 II B	2	4	
	教職実践演習（幼・小）	2	4	
	教職実践演習（中・高）	2	4	

※配置年次は履修が可能な最初の年次を記載しています。教職課程における履修順序（『教職課程履修の手引』および前頁参照）等に注意し履修してください。

## 6. 本学で取得可能な資格 (取得可能な資格の種類 (学部・学科別))

本学で取得可能な資格の種類は次のとおりです。

学 部	学 科	資 格 の 種 類
文学部	英米文学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	フランス文学科	
	日本文学科	
	史学科	
	比較芸術学科	司書・社会教育主事・学芸員
教育人間科学部	教育学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	心理学科	司書・社会教育主事・学芸員
経済学部	経済学科	司書・社会教育主事・学芸員
	現代経済デザイン学科	
法学部	法学科	司書・社会教育主事・学芸員
	ヒューマンライツ学科	
経営学部	経営学科	司書・社会教育主事・学芸員
	マーケティング学科	
国際政治経済学部	国際政治学科	司書・社会教育主事・学芸員
	国際経済学科	
	国際コミュニケーション学科	
総合文化政策学部	総合文化政策学科	司書・社会教育主事・学芸員
理工学部	物理科学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	数理サイエンス学科	
	化学・生命科学科	
	電気電子工学科	
	機械創造工学科	
	経営システム工学科	司書・社会教育主事・学芸員
	情報テクノロジー学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
社会情報学部	社会情報学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
地球社会共生学部	地球社会共生学科	司書・社会教育主事・学芸員
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学科	司書・社会教育主事・学芸員

## 7. 各種資格の取得 希望申請について

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に履修登録システムから「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。申請を行わなければ履修できない科目がありますので注意してください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に行うものであり、各種資格課程履修継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。なお、後期履修登録期間は履修登録システムから教職・各種資格申請はできないので注意してください。後期より申請の追加を希望する場合は、教職課程課（相模原キャンパスは学務課教職課程担当）窓口にて相談してください。

## 8. 資格課程料の 納付方法

履修登録システムから各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の申請登録をすると、それぞれの資格について資格課程料を納付することになります。納付時期は3年次または4年次で最初に申請登録をした年度の後期学費納付時となり、在学中1回の納付となります。たとえ必要科目の履修登録をしなくても、各種資格の申請登録によって資格課程料が後期学費に加算されますので、各自の責任において熟考の上申請をしてください。また、申請登録の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納付された資格課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※各種資格の取得を希望する者は、毎年度、各種資格の申請登録を行ってください。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、資格課程料の納付時期は9月となります。

## 9. 各種資格取得に必要な科目の履修について 履修上の注意

各種資格取得に必要な科目の履修は、1年次の年度初頭に開催される**各種資格オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『教職課程履修の手引』に従ってください。

また、履修方法・科目名称などの変更があった場合には、年度初頭に開催される2年次生対象の**各種資格（司書教諭、司書、社会教育主事、学芸員）**のオリエンテーションなどで資料を配付しますので、必ず出席し確認してください。

各種資格関係のオリエンテーション・説明会および手続などの詳細については、年度初頭行事日程（学生ポータルに掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席することや、指定期間内に「博物館実習Ⅰ」・「ミュージアム実習Ⅰ」予備登録や各種資格申請などの手続を行わないことで、卒業時までに資格の取得ができない事態に陥ることがありますので、遗漏のないよう自己管理してください（ただし、司書教諭資格の取得時期については、『教職課程履修の手引』を参照してください）。

### 履修順序のある科目

司書、社会教育主事、学芸員資格取得のための科目には、「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、『教職課程履修の手引』の司書、社会教育主事、学芸員の項を参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な資格の種類は、「**6. 本学で取得可能な資格**」の表のとおりです。

### 事前登録科目

「博物館実習Ⅰ」および「ミュージアム実習Ⅰ」（3年次配置科目）は、**事前登録科目**です。2年次後期に**予備登録**をし、必要に応じて実施される選抜試験に合格することにより**事前登録**されるので、履修登録期間中に個人が登録する必要はありません。ただし、資格申請は必要となるので、履修登録期間中に履修登録システムで資格申請を行ったうえで、登録内容を確認してください。

なお、「博物館実習Ⅱ」および「ミュージアム実習Ⅱ」（4年次配置科目）は、履修登録システムから各自が登録をしてください。履修順序の条件を満たしていない場合は、登録することができません。

## XII. 大学院について

本学には、より高度な専門知識と技術の修得について高い評価をうけている「大学院」各研究科・専攻に加え、時代と社会の要請に応える高度専門職業人養成の「専門職大学院」があります。

学部から本学「大学院」「専門職大学院」へ進学を希望する学生は、詳細を下記に問い合わせてください。

### 《問い合わせ先》

#### 大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
文学研究科	
教育人間科学研究科	
経済学研究科	教務課 所在：青山キャンパス 17号館 2階
法学研究科	
経営学研究科	
国際政治経済学研究科	
総合文化政策学研究科	
理工学研究科	学務課
社会情報学研究科	所在：相模原キャンパス B棟 1階

#### 専門職大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
国際マネジメント研究科（ビジネススクール）	専門職大学院教務課
会計プロフェッショナル研究科（アカウンティングスクール）	所在：青山キャンパス 17号館 2階

\*青山学院大学公式ウェブサイト (<https://www.aoyama.ac.jp>) にも、情報が載っていますので、参照してください。

\*上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」でお知らせします。

## 大学院 入試情報一覧（2022年度入試実績）

		学内進学者選抜	一般（秋）	一般（春）	特別	大学院科目特別履修資格試験※1
文学研究科	英米文学専攻*1	○	○	○		○
	フランス文学・語学専攻*1		○	○		○
	日本文学・日本語専攻*1	○	○	○		○
	史学専攻*1	○	○	○		○
	比較芸術学専攻*1		○	○		○
教育人間科学研究科	教育学専攻*1		○	○		
	心理学専攻*1 心理学コース 臨床心理学コース		○	○		
	経済学専攻*1	○	○	○		○
経済学研究科	公共・地域マネジメント専攻*1	○	○	○		○
	私法専攻*1		○	○	○	
	公法専攻*1		○	○	○	
経営学研究科	ビジネス法務専攻*2		○(実施時期は要問い合わせ)			
	経営学専攻*1	○	○	○		○
	国際政治経済学専攻*2		○	○	○	
国際政治経済学研究科	国際経済学専攻*2		○	○	○	○
	国際コミュニケーション専攻*2		○	○	○	
	総合文化政策学専攻*3	○	○	○		○
総合文化政策学研究科	文化創造マネジメント専攻*2	○	○	○		○
	総合文化政策学専攻*3	○	○	○		
	会計プロフェッショナルコース		○(実施時期は要問い合わせ)			
理工学研究科	理工学専攻*1 基礎科学コース 化学コース 機能物質創成コース 生命科学コース 電気電子工学コース 機械創造コース 知能情報コース マネジメントテクノロジーコース	○	○(実施時期は要問い合わせ)			○
	社会情報学専攻*1 社会情報学コース ヒューマンイノベーションコース	○	○(実施時期は要問い合わせ)			○
	会計プロフェッショナルコース		○(実施時期は要問い合わせ)			

## 専門職大学院 入試情報一覧（2022年度入試実績）

		学内進学入試				一般入試				大学院科目特別履修資格試験※1
		7月	10月	12月	2月	7月	10月	12月	2月	
国際マネジメント研究科	国際マネジメントサイエンス専攻*3					○		○		
	国際マネジメント専攻*4		○	○	○	○	○	○	○	
会計プロフェッショナルコース	会計プロフェッショナルコース	○		○		○	○	○	○	○

\*1 博士前期課程

\*2 修士課程

\*3 博士課程（5年一貫制）

\*4 専門職学位課程

※1 「大学院科目特別履修資格試験」に合格した者は、学部4年次で大学院科目を履修できます。

文学研究科・経済学研究科・経営学研究科・理工学研究科では「先取り科目履修方式」もあります。

## 教務窓口について

### 窓口で取り扱う業務：

- 履修・成績に関すること
- 授業に関すること
- 休学・退学などの学籍に関する願出
- 教職課程(教員免許状)および各種資格(司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員)取得に関すること
- 証明書に関すること

### 【窓口・取扱時間】

キャンパス	担当窓口	事務取扱時間	
青山キャンパス	学務部 教務課 (17号館2階 スチューデントセンター)	(月～金) 9：00～11：30 12：30～17：00	(土) 9：00～11：30 12：30～13：00
	学務部 教職課程課 (17号館2階 スチューデントセンター)	(月～金) 9：00～11：30 12：30～17：00	(土) 9：00～11：30 12：30～13：00
相模原キャンパス	学務課 (B棟1階 スチューデントセンター)	(月～金) 9：00～11：30 12：30～17：00	(土) 9：00～11：30

\*上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」や「大学公式ウェブサイト」でお知らせします。

\*長期休業など、授業期間以外の事務取り扱いについては「学生ポータル」や「大学公式ウェブサイト」でお知らせします。

\*電話など、窓口以外での受付には原則として応じません。

\*提出物は期限を厳守してください。締切後の取り扱いは一切行いません。

地の塩、世の光

The Salt of the Earth,The Light of the World

青山学院スクール・モットー

学生番号

氏名